学 習 の し お り

２年生用

２０２０

宮城県宮城広瀬高等学校

目　次

１．可能性を広げる確かな学力のために　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２．令和元年度入学生教育課程表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．各科目の年間学習計画と学習の仕方（各教科）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

４．学習計画表（第１回～第４回定期考査）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

５．考査点・評価点をまとめよう　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６

６．私のスケジュール　・・５７

可能性を広げる確かな学力のために

宮城広瀬高等学校　教務部

「学力」は総合力です。基礎的な知識や理解力だけでなく，一生懸命取り組もうとする意欲や学び努力しようとする姿勢，創造力や表現力などは，これから皆さんが社会に出て生きていくときに必要なものです。これらは授業を中心とする高校生活の活動をとおして学んでいくことができます。高校で一生懸命勉強した人は，その後人生においても自分の可能性を広げることができるのです。

この「学習のしおり」は，皆さんがこれから１年間，授業で学ぶそれぞれの教科・科目について，学習目的，学習内容，評価の方法と基準をまとめたものです。また，定期考査毎の学習計画表など，自分で自主的に取り組めるようになっており，皆さんの学習に役立つように工夫してあります。

１　履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では，授業の欠席時数が標準時数（単位数× 35 時間）の３分の１を超えると履修が認められません。また，本校では全科目の履修を義務づけています。つまり，授業をある一定以上休んでしまうと履修が認められず，履修が認められない科目が１つでもある場合は，もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

２　単位について

本校で設定している教科・科目は，それぞれに単位が定められています。たとえば，「数学Ⅱ」は週４時間授業があるので，「４単位」の授業となります。

単位とは，各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の１週間の授業時間が合計で３１時間あるので，１年間で３１単位分の授業を受けることになります。

３　単位修得について

単位修得とは，１年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合，年度末の３月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに８１単位以上を修得しないと卒業できません。また，２学年から３学年に進級するためにも，一定以上の単位修得が必要です。もし単位修得数が基準に満たない場合は原級留置（留年）となり，もう一度同じ学年をやり直さなければなりませんので，十分注意して下さい。

４　定期考査と成績（評点）について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科（体育・芸術等）を除くほとんどの教科・科目について，年４回，定期考査（試験）を実施します。定期考査の点数を含め，関心・意欲・態度や知識・理解などの観点に基づいて総合的に評価を行い，皆さんの成績（評点）が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが，その場合，最大でも得点の８割しか考査点として認められません（忌引きやインフルエンザ等の出席停止，大会参加等の公認と認められる欠席の場合は，追考査の得点を１０割認めます）。また，考査や再指導において不正行為を行った場合には，当該科目の考査点が０点となるほか，相当の処分を受けることになります。

５　欠点と再指導について

４０点未満の評点が欠点（赤点）です。欠点となった科目については，定期考査終了後，担当の先生へ願い出ることにより，再指導を受けて欠点解消を目指すことになります。再指導の成果が良好であれば，評点は最高で４０点までに挽回できます。再指導を受けなかった場合や，再指導の成果が良好でない場合は，評点は欠点のままになります。ただし，定期考査を実施しない科目（体育など）については，担当の先生の指示に従ってください。

６　評定について

年４回出される成績（評点）を平均した点数が学年成績（一年間の成績）となり，５段階の評定が決まります。評定は学年成績が８０点以上の場合は「５」，７０～７９点は「４」，５０～６９点は「３」，４０～４９点は「２」，欠点である３９点以下は「１」です。評定が「１」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は，皆さんが進学や就職するときに重要ですので，欠点とならないようにしてください。

７　技能審査成果の単位認定

本校では，下表に示す技能審査に合格した場合，進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので，積極的に受けることを期待しています。

主なものには，次のものがあります。

技能審査の種類	単位を認められる教科・科目		認められる単位数
（公財）日本英語検定協会主催 実用英語技能検定２級	外国語	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱのうち１科目	２単位
		ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ	２単位
（公財）日本漢字能力検定協会主催 日本漢字能力検定２級	国語	国語総合	２単位
（財）日本数学検定協会主催 数学検定準２級	数学	数学Ⅰ	１単位
（財）日本数学検定協会主催 数学検定２級	数学	数学Ⅱ	２単位

※この他に，全国高等学校家庭科食物調理技術検定１級は「フードデザイン」「家庭基礎」（２単位），毛糸編物技術検定２級は「服飾手芸」（２単位），レース編物技術検定２級は「服飾手芸」（２単位），家庭調理技能検定２級は「フードデザイン」（２単位），介護職員初任者研修は「家庭基礎」と「生活と福祉」のうち１科目（２単位）があります。

８　学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため，「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し，本校の定める条件を満たした場合，２単位まで修得することができます。

「社会体験・インターンシップ活動」

２学年の生徒で，夏季休業中又は３月に進路指導部が実施するインターンシップに参加し，本校で定める条件を満たした場合に，「社会体験・インターンシップ活動」という学校設定科目で１単位修得することができます。

ただし，これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

令和元年度入学生 教育課程表（宮城県宮城広瀬高等学校）

単位	【第１学年】	【第２学年】			【第３学年】 理系				【第３学年】 文系				単位
1	国語総合（５）	現代文Ｂ（２）分割履修			現代文Ｂ（３）分割履修								1
2													2
3		古典Ｂ（２）分割履修											3
4					古典Ｂ（２）分割履修								4
5		X	日本史Ｂ（４）	地理Ｂ（４）									5
6	世界史Ａ（２）				政治・経済（３）								6
7													7
8	倫理（２）												8
9		数学Ⅱ（４）			体育（２）								9
10	数学Ⅰ（３）												10
11					コミュニケーション英語Ⅲ（４）								11
12													12
13	数学Ａ（２）	Y	物理基礎（２）	地学基礎（２）									13
14													14
15	生物基礎（２）	化学基礎（２）			英語表現Ⅱ（２）分割履修								15
16													16
17	体育（３）	体育（２）			A	数学Ⅲ（５）	数学Ⅱ（３）	世界史Ｂ（５）	日本史Ｂ（３）		地理Ｂ（３）		17
18													18
19		保健（１）											19
20	保健（１）	Z	数学Ｂ（２）	音楽Ⅱ（２）	美術Ⅱ（２）	B		数学Ｂ（２）		音楽Ⅲ（２）	美術Ⅲ（２）	英語会話（２）	生活と福祉（２）	20
21	音楽Ⅰ（２）	美術Ⅰ（２）												21
22		コミュニケーション英語Ⅱ（４）				C	物理（４）	生物（４）	実践国語（２）		スポーツⅠ（２）		情報処理α（２）	22
23	コミュニケーション英語Ⅰ（３）													23
24						D			化学基礎（２）		地学基礎（２）		子どもの発達と保育（２）	24
25														25
26	英語表現Ⅰ（２）	英語表現Ⅱ（２）分割履修				E	化学（４）		数学Ⅱ（２）		フードデザイン（２）		ビジネス基礎（２）	26
27														27
28	社会と情報（２）	家庭基礎（２）				F			生物基礎（２）	器楽（２）		ビジュアルデザイン（２）	情報処理β（２）	28
29														29
30	総合的な探究の時間（1）	総合的な探究の時間（１）			総合的な探究の時間（１）								30
31	ホームルーム活動（0）	ホームルーム活動（０）			ホームルーム活動（０）								31

【学校外学修】による単位認定 ※ボランティア活動は各学年最大２単位，３年間で６単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第２学年のみ１単位修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動（０），（１），（２）	社会体験・ボランティア活動（０），（１），（２）	社会体験・ボランティア活動（０），（１），（２）	32
33				33
34	＊	社会体験・インターンシップ活動（0），（1）	＊	34

【第３学年】における単位数および科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数
国語	5	5，7
地理歴史	0	3，5
公民	3	3
数学	3，5	0，2
理科	8	0，2，4
保健体育	2	2，4
芸術	0	0，2，4
外国語	6	6，8
家庭	0	0，2，4，6
商業	0	0，2，4

理系	17 ～ 21	「数学Ⅲ(5)」または「数学Ⅱ(3)＋数学Ｂ(2)」を選択 数学Ｂ(2)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能
	22 ～ 25	物理(4)または生物(4)を選択 物理(4)は第２学年で物理基礎(2)を履修した者が選択可能
文系	17 ～ 21	「世界史Ｂ(5)」または「日本史Ｂ(3)または地理Ｂ(3)＋音楽Ⅲ(2)・美術Ⅲ(2)・英語会話(2)・生活と福祉(2)から１科目」を選択 地理Ｂ(3)・日本史Ｂ(3)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能。また，音楽Ⅲは第２学年で音楽Ⅱを，美術Ⅲは第２学年で美術Ⅱを履修した者が選択可能。
	22 ～ 23	実践国語(2)・スポーツⅠ(2)・情報処理α(2)から１科目選択
	24 ～ 25	化学基礎(2)・地学基礎(2)・子どもの発達と保育(2)から１科目選択 地学基礎(2)は第２学年で当該科目を履修した者が選択可能
	26 ～ 27	数学Ⅱ(2)・ビジネス基礎(2)・フードデザイン(2)から１科目選択
	28 ～ 29	生物基礎(2)・器楽(2)・ビジュアルデザイン(2)・情報処理β(2)から１科目選択
	22～23／28～29	情報処理α(2)・情報処理β(2)はいずれか一方のみ選択可能

２年　現代文Ｂ

○ 学 習 の ね ら い

ものを考えるとき、私たちは「言葉」を用いて考えている。国語以外の教科を学習する上でも、「言葉」で理解し、「言葉」で考える。ものごとを正しく（誤解せずに）理解し、自分の考えを正確に伝える力を養うことは、どんな勉強にも必要なことである。

語彙を増やし、スムーズに文章を読んで内容を捉える力を身につけることと、そこから自分の考えを深め、言葉で表現する力を高めること、その２点を意識して取り組んでほしい。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

文章を読む力は、文章を読まなければ身につくことはない。練習しなければスポーツが上達しないのと同じである。だから、できるだけ文章を読む機会を多くしよう。

「予習」は教科書を読み、難しい言葉は辞書で調べておくこと。さらに意味の分かりにくい表現をチェックする。予習プリントが課されている場合は、必ずしっかり取り組んで完成させておこう。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

「授業」では「予習」の内容を確認するとともに、指示語や段落相互の関係などを明確に理解し、授業時間内に教科書本文の内容を矛盾なく把握できるようにする。

３　授 業 後　～　復習　～

現代文の場合、予習と授業の取り組みをしっかりできていれば「復習」の比重はそれほど重くなくても良い。

「発展」としては、たくさんの本を読むこと、新聞を読むこと、小論文や感想文を積極的に書いてみることなど、可能性は無限大である。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は80％を原則とする。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	発表等	提出物	レポート	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る。また、進んで表現したり伝え合おうとしている。	○	◎	○	◎		◎
話す・聞く能力	自分の考えや意見をまとめ､聞き手に伝えたり、相手の話す内容を的確に聞き取ったりしている。	○	◎				
書く能力	筋道を立てて適切な文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	○		○	◎		◎
読む能力	様々な文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させている。	○		○	◎		◎
知識・理解	語彙、漢字、文法などの国語の知識を身につけ、適切に使用している。	○	○		○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
国語	現代文B	2年 全クラス	2	改訂版 現代文B （ 第一学習社）	新訂総合国語便覧（第一学習社） 改訂版 学習課題集現代文B（第一学習社） 改訂版TOP2500（いいずな書店）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	「自明性」の罠からの解放 見田宗介	6	［評論］ 生き方についての方法論に目を開く。	○具体例と抽象的記述との関係を理解していく。 ○比較を通じて、「自分」と「社会」に対して持つべき視点を把握する。	A・B・C A・B・C
5		日本人の「自然」 木村　敏	9	［評論］ 日本人の自然観を捉える。	○評論を読み、その要旨を的確に捉える。 ○私達、日本人の自然観というものについて知見を深める。	A・B・C A・B・C
6	考査		1			
7	第二回考査範囲	山月記 中島　敦	8	［小説］ 人間とはどんな存在か学ぶ。	○小説を読み、そこに描かれた場面や登場人物について的確に捉える。 ○小説の虚構性を通して、人間とは何かについて考えを深める。	A・B・C A・B・C
8 9		手の変幻 清岡　卓行	7	［評論］ 芸術というものの価値について知る	○文章全体の論理の構成や展開を正確に把握する方法や高度な比喩表現を学ぶ。 ○芸術が持つ価値について知見を深める。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
10	第三回考査範囲	消費社会とは何か 國分功一郎	8	［評論］ 現代社会に内在する難問に目を向ける。	○評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ○現代社会に内在する難問について知見を深める。	A・B・C A・B・C
11		トランス・サイエンスの時代 村上陽一郎	8	［評論］ 事実とその解釈の問題について学ぶ。	○評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ○事実とその解釈の問題について、考えを深める。	A・B・C A・B・C
12	考査		1			
1	第四回考査範囲	こころ 夏目　漱石	12	［小説］ 人間の心理や人生への関心を深める。	○小説を読み、登場人物・情景・心情などの描写を的確に捉えて味わう。 ○作者の人間理解を通して人生への関心を深め、自己の形成に資する。	A・B・C A・B・C
2		連帯という言葉の意味 内山　節	6	［評論］ 「連帯」という言葉を捉え直し、近現代社会を理解するための視点を学ぶ。	○評論の読み方に習熟する。 ○自然と人間、人間同士の関係を「連帯」という言葉を通して見つめ直す。	A・B・C A・B・C
3	考査		1			
		新年度の準備 （ 詩 永訣の朝　宮沢 賢治 ）	2			

２年　古典Ｂ

○ 学 習 の ね ら い

古典は、江戸時代までに書かれた文章を指します。有名な『源氏物語』や『論語』など、千年も前に書かれた文章をわたしたちが今も読むことができるのは、それを絶やすまい、失くすまいと必死になって書き写し、残そうとした人たちがいたからです。それらの「古典」や、それに関わる文章を読むことによって、日本の伝統や文化に対する理解を深めましょう。そして、生涯にわたって古典を親しむ態度を育てましょう。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

１　授業の前　～ 予習 ～

古文も漢文も、現代とは異なる文字使いや文法で書かれています。ことばの意味も違います。現代語訳が必要になってくるので、ノートの指定の場所に、適切な間隔をあけて本文を書き写しましょう。

古文は、本文がすらすら読めるようになるまで練習します。

漢文は、最低限書き下しまではしておきましょう。

２　授業中 ～ 授業中の注意点 ～

古文や漢文は、現代語に直す必要があります。そのためには、書かれている言葉をしっかり理解しなければなりません。文法の理解が必要になります。なぜそのような現代語訳になるのかを考えながら授業に臨みましょう。また、意味がわかったら、そこに書かれている教訓や心情から人間の心にある普遍的なものをつかめるようにしましょう。

３　授業後　～ 復習 ～

古文も漢文も、文法事項は必ず復習しましょう。新しく触れる言葉、新しく触れる漢字をしっかりと覚え、次回からは活用できるようにならなければなりません。

覚えるべきことは必ず覚えること。そのための努力を惜しまないこと。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 80%を原則とする。

評価の観点	身に付けたい学力	学習状況の観察	発表	提出物	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、わが国の文化の特質や中国との文化の関係について理解を深めようとする。	○	◎	○		◎
読む能力	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。	◎	○	◎	◎	◎
知識・理解	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に着けている。	◎	◎	○	◎	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
国語	古典B	2年 全クラス	2	改訂版　古典B （第一学習社）	古典B　学習課題集（第一学習社） 体系古典文法（数研出版）・新明説漢文（尚文出版） 新訂四版　新訂総合国語便覧（第一学習社）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	説話 古今著聞集「小式部内侍」 随筆（一） 徒然草「あだし野の露」 方丈記「安元の大火」 故事・寓話 唐詩紀事「推敲」 呂氏春秋「知音」	4 3 3 3 3	古典文法の復習 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 対句的表現を味わい、筆者の無常観ついて理解する。 和漢混交文による論理的展開 返読文字の訓読 話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	1年次の学習事項が整理できている。 小式部内侍が和歌を詠んだ経緯を理解し、和歌の巧みさが理解できている。 筆者が無常観を抱くに至った経緯が論理に従い理解できている。 和漢混交文の特色を理解している。 返読文字の訓読ができる。 故事成語の成立の経緯を理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	物語（一） 大和物語「苔の衣」 竹取物語「帝の求婚」 名家の文章 「雑説」韓愈 「売油翁」欧陽脩	5 6 2 2	歌物語における和歌の役割 敬語の種類と働き 基本句形の理解 文章における筆者の主張の理解	和歌が詠まれる背景となった物語を読解する。 敬語の種類と働きを整理することができる。 疑問、反語といった基本句形が理解できている。 文章のたとえから、筆者の主張が理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	物語（二） 大鏡「道長と伊周」 日記 更級日記「門出」 項羽と劉邦 史記「鴻門之会」 ・剣の舞 ・樊噲、頭髪上指す	4 4 4 4	敬語の把握による文章理解 時代背景と作者の心情理解 句形の読みと意味 多彩な登場人物の行動や心理	敬語を把握し、場面状況を理解することができる 作者の「源氏物語」へのあこがれに共感することができている。 句形の読みと意味を理解し、口語訳ができる。 物語に即し、多彩な登場人物の行動や心理を理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第四回考査範囲	物語（二） 源氏物語「光る君誕生」 儒家の思想 孟子「性善」 道家・法家の思想 荘子「曳尾於塗中」 韓非子「侵官之害」	10 3 3 2	敬語をもとに主語を推定する 話の構成や展開を把握し、登場人物の心情を読み味わう。 諸家の思想 句形の読みと意味	敬語をもとに主語を推定することができる。 源氏物語の登場人物や物語の根底にある思想を理解できている。 儒家・道家の思想の概要を理解している。 句形の読みと意味を理解し、口語訳ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
3		新年度の準備	1			

２年　日本史Ｂ

○ 学 習 の ね ら い

我が国の歴史の展開を、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせると共に、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と、平和で民主的な国際社会の実現に主体的に努めることの出来る日本人としての資質を養う。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

授業開始前に、ノート・教科書・史料集など必要なものを全て準備着席し、前回の授業の内容を確認する。欠席した場合は、その分のノートを級友から見せてもらい必ず筆写しておくこと。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

真剣な気持ちで授業に向かうことが何より大切。ノートは、板書事項だけではなく先生の話や自分で気づいたことなども積極的に記入しておこう。
疑問に思うことがあれば、積極的に質問してみよう。

３　授 業 後　～　復習　～

歴史の「流れ」と「因果関係」を具体的なイメージとして感じ取る事が何より大切となる。
自ら進んで、図書館・インターネット等で関連する書籍や史料に目を通してみよう。
本校図書館には、わかりやすい「漫画版日本の歴史」などもある。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。定期考査の割合は80％を原則とする。

※評価の観点は以下のとおり。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習状態の観察	発表等	提出物	定期考査
関心・意欲・態度	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求している。	◎	◎	○	◎
思考・判断	我が国の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野に立ち多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	◎	◎		◎
資料活用の技能・表現	諸資料の収集と有用な情報を選択して活用でき、歴史的事象の追求と、考察の過程と結果を適切に表現する。	◎	○	○	
知識・理解	我が国の歴史について基本的な事柄を世界史的な視野に立ち、国際環境などと関連づけて理解し、その知識を身につけている。	◎	○		◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
地理歴史	日本史B	2年 選択	4	詳説日本史 （　山川出版社　）	最新日本史図表　三訂版（第一学習社） 詳説日本史整理ノート（山川出版社）	140

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	第1章　日本文化のあけぼの 第2章　律令国家の形成 第3章　貴族政治と国風文化	35	更新世の日本 縄文文化 弥生文化と小国家の成立 ヤマト政権と古墳文化 推古朝の政治と飛鳥文化 大化の改新 律令国家の成立 土地制度の変化 奈良時代の政治 律令政治の再編 荘園の発展と武士団の台頭	旧石器時代・縄文時代について、食料獲得方法の変化や道具の発達から、社会や文化の変化などを理解する。 小国家の形成からヤマト政権に至る流れを東アジアとの関係に着目しながら、弥生・古墳時代社会の発展を通して理解する。 推古朝から律令体制建設に向かう流れを、東アジアの国際関係にも注目して理解する。 律令体制の形成と展開を、東アジアの国際関係にも注目して、多面的に考察する。 律令政治の変質と荘園制の成立を理解し、武士団の発生と成長を考察する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			点
7 8 9	第二回考査範囲	第4章　中世社会の成立 第5章　武家社会の成長 第6章　幕藩体制の成立	34	院政と平氏政権の特徴 鎌倉幕府の成立・執権政治の展開 元寇と御家人社会の変質 経済の発展 守護領国制と守護大名 下剋上の社会と戦国大名 天下統一 江戸幕府の成立	院政と武家政権の成立を、社会の変質の中で理解する。 鎌倉幕府の滅亡と、建武の新政、室町幕府の成立過程について理解する。 織豊政権と江戸幕府の成立について、ヨーロッパ世界との接触に着目しながら理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			点
10 11 12	第三回考査範囲	第7章　幕藩体制の展開 第8章　幕藩体制の動揺 第9章　近代国家の成立	34	幕政の安定 元禄文化 享保・寛政・天保の改革 列強の接近 討幕運動と大政奉還 明治政府の成立と三大改革 憲法の制定 条約改正 日清戦争・日露戦争	幕府政治の変化を、社会の変化と関連づけて考える。 開国～幕府滅亡までの経過を欧米列強との関係の中で考え、中央集権体制の成立過程を理解する。 大日本帝国憲法と一連の立憲体制の特質を理解する。 日清・日露戦争と日本資本主義の成立と発展について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			点
1 2	第四回考査範囲	第10章　二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本 第12章　高度成長の時代 第13章　激動する世界と日本	34	第1次世界大戦 満州事変・支那事変 太平洋戦争 連合国の占領と政策の転換 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道 冷戦終結と日本社会の動揺	第1次世界大戦から日中戦争へ、太平洋戦争へと突入していった過程を理解する。 戦後の日本の歩みと世界情勢を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			点
		新年度の準備		今年度の復習	テーマを選んで振り返りを行う。	

２年　地理Ｂ

○ 学 習 の ね ら い

２学年の地理Ｂでは地理的技法を習得し，現代社会の地理的事象を系統地理的・地誌的に考察することを学習活動の中心のする。また、地理的な視点からのアプローチを行う力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことを目的とする。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

常に世界を空間的に把握できるように努める。教科書や資料集の用語や地名を学習した際に、地理用語が空転しないよう知的好奇心を持って授業に臨む。授業では教科書、資料集、地図帳を駆使し，地理的技法で現代世界にアプローチできるように学習活動を行う準備をもって臨む。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

板書された事項の整理は各自が行う。各学習項目毎（ほぼ毎時間）に要点をまとめたプリントを配布する。これを元に最低限の学習内容の提示とする。このためノートはこの作業以外で概念や空間把握のために必要と思われる内容を整理することとなる。美しいノートは不要で自分にとってわかりやすいノートであることが重要である。ゆえに口頭で説明された学習内容の中で重要と判断したものについてはメモをとり復習の際に理解に役立つようにし，知識を自分の中で消化する。またペアワークを学習活動の中心とし,単なる用語の確認に留まらず他者の意見を参考にしながら思考の枠を広げ,概念形成に努めることを目的とした作業を行う。小テストは絶対評価と自己到達相対評価を並行して行うので、主体的な取り組み以外に道がない。

３　授 業 後　～　復習　～

ノート・プリントは常に自分の手法で整理する。定期考査対策は当然だが，社会的事象にすぐにコミットできるよう学習しておかなければ公教育としての意味はなさない。教科書や資料集は半年で使いこなせるようにすること。どこに何が掲載されているか情報整理と処理能力を身につけることも地理的技法の重要な点であることを自覚すること。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う、定期考査の割合は80％を原則とする。

【　】は表中表現

●学習の取り組み（出席していても提出物がなければ欠席扱いとする）【学習状態の観察】

●単元ごとの確認テスト【提出物・作業，小テスト】

●大学入学共通テストに準じた授業内での記述説明課題における用語の使い方と地理的事象の理解度【発表】

●ペアワークでのノート交換での他者評価【発表・小テスト】

※評価の観点は以下のとおり。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	発表等	提出物・作業など	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	現代の地理的な事物・事象に関心を持ち，諸課題を自己の興味や課題とつなげて学術的に探究している。	◎	○	◎	○	○
思考・判断・表現	学習活動において論述など通し，自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察や探究を行い，その過程や結果を適切に表現している。	○	◎	◎		◎
資料収集の技能	学習教材を活用し,収集した資料の中から，自己の問題として探究する学習に役立つ情報を適切に選択し，提示した上で，自己の資料として活用している。	○	◎	◎	○	◎
知識・理解	地理的事物・現象に対する，基本的な理解や原因・結果を理解し，人格の形成に生かす知識として身に付けている。。	○			◎	◎

発表についてはプレゼンテーション能力（資料整理や提示，データの処理や参考文献の選択）を重視する。人前で話ができるなどという点は考慮しない。考査における技能は限られた時間でどこまで地図やデータを読み込めるかを重視する。　　※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
地理歴史	地理B	2年 選択	4	新詳地理B 新詳高等地図 （帝国書院）	最新地理図表　GEO （第一学習社）	140

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	第Ⅰ部　さまざまな地図と地理的技能 1章　地理情報と地図 2章　地図の活用と地域調査 第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察 1章　自然環境 1節　世界の地形 2節　世界の気候 3節　日本の自然の特徴と人々の生活 4節　環境問題 2章　資源と産業 1節　産業の発達と変化 2節　世界の農林水産業	34	・地図の種類やその利用について学ぶとともに、地図の読図の技能を身につける。 ・世界の地形を分類し、地形の分布や成因を考察する。 ・世界の気候について、それぞれの気候区の特徴や人間生活への影響を考察する。 ・世界の環境問題の成因や特徴と対策、地域的分布を考察する。 ・現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。	・地図の読図の活動を通して、現代の地図や身近な地図の有用性に気づく。同時にGISを活用し,作成できるか。 ・世界の地形について、営力の視点から様々な地形があることを考察できたか。 ・世界の気候について、特徴や農業など人間生活との関わりに関心や問題意識を高めることができたか。 ・環境問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追及しようとしたか。 ・農林水産業の現状や課題について、資料や図表から読み取ることができたか。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	3節　食料問題 4節　世界のエネルギー・鉱産資源 5節　資源・エネルギー問題 6節　世界の工業 7節　第3次産業 8節　世界を結ぶ交通・通信 9節　現代世界の貿易と経済圏	34	・発展途上国、先進国それぞれの食料問題を考察する。 ・世界の資源・エネルギーと、その問題について考察する。 ・世界の工業や第3次産業、そして世界を結ぶ交通・通信を理解することによって、現代世界の貿易や経済圏の現状と課題について考察	・世界の食糧問題に対する課題や問題意識を高め、それを追及しようとしたか。 ・世界の資源・エネルギー問題に対して、問題意識を高めることができたか。 ・世界の工業や第3次産業について、資料や図表からその現状や課題を読み取ることができたか。 ・世界の貿易について、資料や図表から現状や課題を読み取ることができたか。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	3章　人口、村落・都市 1節　世界の人口 2節　人口問題 3節　村落と都市 4節　都市・居住問題 4章　生活文化、民族・宗教 1節　生活文化 2節　民族と宗教 3節　現代世界の国家 4節　民族・領土問題	34	・世界人口の分布の特徴や動態を考察する。 ・世界の人口問題を大観する。 ・村落・都市の立地や発達・機能、さらに世界の都市・居住問題を大観する。 ・民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 ・民族・領土問題を考察する。	・様々なデータから世界人口の分布や動態などについて考察することができたか。 ・先進国や途上国の人口問題を考察できたか。 ・集落がどのように発展し、都市としてどのように成立したかを考察できたか。先進国と途上国それぞれの都市問題を考察できたか。 ・民族・言語・宗教がどのように人々との生活と関わっているのかが考察できたか。 ・言語・宗教をめぐる問題、領土をめぐる問題に対する関心を高めることができたか。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第四回考査範囲	第Ⅲ部　現代世界の地誌的考察 2章　現代世界の諸地域 2節　東アジア 3節　東南アジア 4節　南アジア 5節　西アジアと中央アジア 6節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節　ヨーロッパ 8節　ロシア 9節　アングロアメリカ	34	・各地域について、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、民族、人口、食生活と農業、工業化と経済発展という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。	・各地域について、自然、歴史、文化、産業などにみられる地域的特色について理解を高め、またそれらについての地域的課題を意欲的に追及することができたか。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
3		10節　ラテンアメリカ 11節　オセアニア				A・B・C A・B・C

２年　数学Ⅱ

○ 身につけてほしい学力

２年生の数学Ⅱでは，１年次に学習した数学Ⅰの内容を基盤とし，更に深い学習へと踏み込んでいきます。数学が科学技術の発展に貢献し，私たちの生活にとっても身近なものであることにも気づいてもらえるよう指導していきます。また，物事を筋道立てて論理的に考える習慣を養い，数学の奥深さや面白さを意識して学習してくれることを期待します。　※進度によって学習内容が変更する場合があります。

○ 学習方法

１．授業の前　～　予習　～

高校での学習内容は，授業を聞くだけでわかるような簡単なものではありません。授業を理解するために予習は不可欠です。教科書に目を通すだけでも授業内容の把握には効果があります。部活などでどんなに忙しい状況でも予習は欠かさないようにしてください。予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めませんが，前回学んだ内容や，次の授業で必要な知識は確認しておきましょう。

２．授業中　～　授業中の注意点　～

学習の要は授業です。毎時間集中して受けられるよう体調管理に努めてください。中学数学からの延長で，ただ問題が解ければいいといった考えを持った生徒が少なくありませんが，それでは数学の奥深さや面白さを理解できないだけでなく，論理的な考え方などの数学における本質的な部分が身につきません。「なぜ」と思う部分を１つひとつ解決し，曖昧さを排除できるよう取り組んでもらいたいと願います。また，ノートのとり方も工夫が必要です。とりあえず板書事項だけをノートに写しておく人もいますが，考査前に見直したときに理解できないといった経験はないでしょうか。自分なりの補足やメモを加えることで，後で思い出すことができるよう配慮したノートづくりを心がけてください。

３．授業後　～　復習　～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問するなどして解決するよう心がけましょう。問題を数多くこなすことも大事ですが，質も重視してもらいたいと願います。進学を目指す生徒は１つの問題にじっくり時間をかけて考える機会も必要です。考える習慣を積み重ねることで着実に力が身についてくるはずです。

○ 評価の方法

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で，問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み，実力を確かなものにして臨んで下さい。定期考査に迫られ，その場限りの学習しかしてこなかったという人は計画立てて実行する習慣も養いましょう。

定期考査の割合は７０％以上を原則として，下記の観点に基づいて１００点満点で総合的に評価を行います。

観　　点	この科目で身につけたい学力を観点別に整理し，以下に示します。この観点から評価を行います。学習を進める上での参考にして下さい。	学習の観察状況	発表等	提出物	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用しようとしている。	○	◎	◎		
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し，表現することができる。	○			○	◎
技　　能	数式やグラフ,図を適切に扱うことができる。	○	○		○	◎
知識・理解	数学の基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めている。	○			○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
数学	数学Ⅱ	2年 全クラス	4	新編　数学Ⅱ （第一学習社）	ビルドアップ　数学Ⅱ （第一学習社）	140

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）まだ	授業時数	主な学習内容 （どのような内容を学ぶのか）	到達目標 （どのようなことを身に付けたいか）	自己評価 A：理解できた B：ある程度理解できた C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	1章　式と証明 1節　式と計算	10	・3次式の乗法公式と因数分解の公式について学ぶ。また，二項定理をパスカルの三角形と関連づけて学習し，その応用に触れる	・3次式の乗法公式と因数分解の公式を理解し記憶する。また，二項定理をパスカルの三角形と関連づけて学習し，その応用を通して数学のよさが分かる	A・B・C
				・整式の割り算の意味を理解し，商と余りを求めることを学ぶ	・整式が整数の割り算と同じような方法で計算できることを理解し，商と余りを求める	A・B・C
				・分数式の意味を理解し，その四則計算をする	・分数式の意味を理解し，その四則計算をする	A・B・C
		2節　等式・不等式の証明	7	・恒等式がつねに成り立つことを証明する。方程式や不等式の証明方法を学習する	・恒等式がつねに成り立つ条件を求めたり，等式や不等式の証明方法を理解する	A・B・C
				・相加平均・相乗平均について学ぶ	・相加平均・相乗平均について理解し活用する	A・B・C
		2章　複素数と方程式				A・B・C
		1節　複素数と方程式の解	11	・複素数を定義し，複素数の四則計算をする	・2乗すると負になるような新しい数を考え，計算方法を学び，計算する	A・B・C
				・2次方程式を複素数の範囲で解いたり，解の判別や解と係数の関係を学ぶ	・2次方程式の解や判別式や解と係数の関係を複素数の範囲で学び直し，解く	A・B・C
		2節　高次方程式	6	・剰余の定理と因数定理を学ぶ	・因数定理を利用して因数分解を行う	A・B・C
				・高次方程式の解き方を学ぶ	・因数定理を利用して3次方程式が解く	A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	3章　図形と方程式 1節　点と直線	17	・座標平面上の点の距離や内分や外分について学ぶ。また，直線の方程式の性質や2直線の関係を学ぶ	・数直線上や平面上において，2点間の距離や内分点・外分点の座標，条件を満たす直線の方程式などを求める。さらに，直線の方程式を利用して2直線の関係や平面図形の性質を理解する	A・B・C
		2節　円の方程式	10	・座標平面上の円の方程式を導き，中心の座標と半径を求める。また，円と直線の位置関係を調べる。さらに，円の接線の方程式を求めることを学ぶ	・座標平面上の円の方程式を導き，中心の座標と半径を求める。また，円と直線の位置関係を理解し，円の接線の方程式を求める	A・B・C
		3節　軌跡と領域	7	・与えられた条件を満たす図形の方程式を導き，その図形の形状を考察する。また，不等式を満たす点全体の集合について図示することを学ぶ	・与えられた条件を満たす図形の方程式を導き，その図形の形状を考える。また，不等式を満たす点全体の集合を領域として学び，図示する	A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	4章　三角関数 1節　三角関数	16	・角の概念を一般角に拡張することと，新しい角の表し方として導入された弧度法を理解する。また，弧度法による三角関数の表し方やグラフを学ぶ。三角関数を含む方程式と不等式の解を求めることを学ぶ	・角の概念を一般角に拡張し，360°以上の角度やマイナスの角度を学ぶ。また新しい角の表し方として導入された弧度法を理解する。さらに弧度法による三角関数に慣れ，グラフを描く。三角関数を含む方程式や不等式を解くために，図を用いて理解を深める	A・B・C
		2節　三角関数の加法定理	6	・三角関数の加法定理を理解しそれらを活用する。また，加法定理から2倍角の公式，半角の公式，合成公式などを導き，それらを活用する	・三角関数の加法定理を導き，それらの活用ができる。また，加法定理から2倍角の公式，半角の公式，合成公式などを導き，それらを活用する	A・B・C
		5章　指数関数・対数関数 1節　指数関数	6	・指数法則を発展させ指数関数を導入する	・指数を0や負の整数，有理数まで拡張し，拡張された指数について指数法則を用いて計算する。また，指数関数のグラフから数の大小を比較する。さらに，方程式・不等式を解く	A・B・C
		2節　対数関数	6	・指数関数の逆関数として対数関数を導入し，性質を探る	・対数の定義や性質を理解し，計算する。また，対数関数のグラフから数の大小を比較する。また，方程式・不等式を解く。さらに，常用対数を利用して自然数の桁数を調べる	A・B・C
12	考査		1			
1 2	第四回考査範囲	6章　微分と積分 1節　微分係数と導関数	7	・平均変化率の極限値として微分係数を求める。また，3次以下の整関数について導関数を求め，それを利用して微分係数を求めることを学ぶ	・平均変化率の極限値として微分係数を理解する。また，3次以下の整関数について導関数を求め，それを利用して微分係数を求める	A・B・C
				・微分係数を利用し，接線の方程式を求めることを学ぶ	・微分係数を利用し，接線の方程式を求める	A・B・C
		2節　関数の値の変化	10	・関数の増減を調べてグラフを描く。また，最大値・最小値を求める。さらにグラフを利用して方程式の実数解の個数を調べる。また不等式を証明することを学ぶ	・関数の増減を調べてグラフを描く。また，最大値・最小値を求める。さらに，方程式の実数解の個数を調べたり不等式を証明する	A・B・C
		3節　積分	17	・微分の逆として積分を導入して理解し，基本的な計算をする。また，定積分を利用して直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることを学ぶ	・積分の考えについて理解し，基本的な計算をする。また，定積分を利用して直線や曲線で囲まれた図形の面積を求める	A・B・C
3	考査		1			
		研究		・直線に関して対称な点	・直線に関して対称な点を求める	
				・放物線とx軸とで囲まれた図形の面積	・6分の1公式を利用して面積を求める	

２年　物理基礎

○ 学 習 の ね ら い

自然の中には，不思議なことやきれいな現象がいくつもある。そのさまざまな現象について，どうしてそうなるのか知りたいと思ったことはないだろうか。重いものと軽いものが同時に落下するって本当だろうか。だるま落としを上手にやるにはどうすればよいだろうか。空気の分子（窒素分子や酸素分子）はいったいどれくらいの速さで飛び回っているのだろう。ものの温度はどうやって決まるのだろう。音波と音波が重なったらどうなるのだろう。こんなふうに，私たちの身の回りには，知りたいと思うことが数え切れないほどあるはずだ。

物理基礎ではこのような事物・現象について，観察，実験を行いながら学習する。学習していく中で，自然に対する関心や探究心を高め，基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的に物事を考えることができるようになることがこの科目のねらいである。

主な学習内容は，運動とエネルギー（運動の表し方，運動の法則，仕事と力学的エネルギー），熱（熱とエネルギー），波（波の性質，音），電気（物質と電気抵抗，磁場と交流），エネルギーの利用である。放射性物質や放射線の測定についても学習する。

これらについて基本的な概念や法則を理解し，日常生活と関連付けて考える力を身に付けてほしい。

○ 学 習 方 法

１　授業前　～　予習　～

事前に教科書を読み，授業で学習するところを確認しておく。記号の意味，速度や力などの物理量の単位など，基本的なことは覚えておく。

２　授業中　～　授業中の注意点　～

先生の話は集中して聞く。疑問に思った点，理解できないところは恥ずかしがらずに積極的に質問する。

３　授業後　～　復習　～

教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返しやってみる。さらに課題がほしいときは遠慮せずに先生にもらいにいく。

○ 評 価 方 法

定期考査（テスト）は４回とも実施します。しっかり学習して臨んでください。

下記の観点に基づいて１００点満点で評価を行います。定期考査の割合は70～80％を原則とします。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示す。	取組姿勢	ノート	レポート	課題演習	定期考査
関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち，意欲的に探究しようとするとともに，科学的な見方や考え方を身に付けている。	◎	○	◎	○	◎
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	◎	○	◎	○	◎
観察・実験の技能	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	◎		◎		
知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。	○	○	◎	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
理科	物理基礎	2年 選択	2	改訂版　新編　物理基礎 （数研出版）	四訂版　リードLight 物理基礎 （数研出版）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか	到達目標 ※どのようなことを身に付けるのか	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	第1編　運動とエネルギー 第1章　運動の表し方 ①速度 ②加速度 ③落体の運動 第2章　運動の法則 ①力とそのはたらき ②力のつりあい	3 3 4 3 4	・物体の運動の表し方 ・速さと速度の違い ・合成速度，相対速度，v－tグラフ ・直線運動の加速度 ・自由落下運動，鉛直放射，放物運動 ・重力加速度の測定実験 ・様々な力とその働き ・力のつりあい，力の合成，力の分解 ・抗力，摩擦力 ・弾性力，静電気力と磁気力 ・作用と反作用	・物体の運動の表し方について，距離，時間，速度の測定と分析の方法を理解する。 ・物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動の関係について理解する。 ・アトウッド器械の工夫を通して，重力加速度をできる限り正確に測定する方法を探究する学習に取り組む。 ・物体に様々な力が働くことを理解する。 ・物体に働く力のつり合い，作用と反作用について理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	③運動の法則 ④摩擦を受ける運動 ⑤液体や気体から受ける力 第3章　仕事と 力学的エネルギー ①仕事 ②運動エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存	5 2 2 2 2 3	・慣性の法則，運動の法則，運動方程式 ・静止摩擦力，動摩擦力 ・大気圧と水圧 ・浮力，アルキメデスの原理，空気抵抗 ・仕事の定義，仕事の原理 ・運動エネルギーと仕事の関係 ・重力による位置エネルギーと弾性力による位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則 ・つる巻きばねの振動実験	・運動方程式の立て方と解き方を理解する。 ・摩擦を受けたときの運動について理解する。 ・大気圧や水圧の求め方及び浮力の求め方について理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて，仕事と関連付けて理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。 ・縦置き型のつる巻きばねを振動させ，振動時間を長くする方法を探究する学習に取り組む。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	第2編　熱 第1章　熱とエネルギー ①熱と熱量　②熱と物質の状態 ③熱と仕事　④不可逆変化と熱機関 第3編　波 第1章　波の性質 第2章　音	4 4 4 4	・温度と熱量，熱容量と比熱 ・物質の三態 ・熱と仕事，内部エネルギー ・不可逆変化と熱機関 ・波の要素，横波と縦波，単振動 ・重ね合わせの原理，反射と屈折 ・音の三要素，弦の振動，気柱の振動	・熱と温度について，原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する。 ・波の性質について，直線上を伝わる場合を中心に理解する。 ・気柱の共鳴，弦の振動及び音波の性質を理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第四回考査範囲	第4編　電気 第1章　物質と電気抵抗 ①電気の性質 ②電流と電気抵抗 ③電気とエネルギー 第2章　磁場と交流 ①電流と磁場 ②交流と電磁波	3 4 3 3 3	・静電気，電荷，帯電のしくみ ・電気回路，オームの法則 ・抵抗の接続 ・ジュール熱，電力 ・磁気力と磁場 ・電流のつくる磁場，電磁誘導 ・交流と直流，電磁波	・電気の基本的な性質と電気を運ぶしくみについて理解する。 ・合成抵抗を求めることができる。 ・電流がする仕事について理解する。 ・電流と磁場との関係，電磁誘導について理解する。 ・交流の発生，送電及び利用について，基本的なしくみを理解する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
3		第5編　物理学と社会	1	・エネルギーの利用 ・放射線	・人類が利用可能な水力，化石燃料，原子力，太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用などについて理解する。	A・B・C

２年　地学基礎

○ 学 習 の ね ら い

地球には，大気や海，そして，火山や地震などさまざまな自然があります。また，その地球が存在している空間が宇宙です。その宇宙や地球の自然の成り立ちを扱います。その他には，宇宙や地球，生物の進化の歴史，それから，今後，地球はどのように変化するのかということについても予想し，考えます。地学では，以上の地学的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な自然観を育てることをねらいとします。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

授業前の準備として重要なのは，授業に積極的に参加しようとする心構えです。地学は自然科学の中でも仮説（予想）を立て，それを検証（確かめる）することで発展してきた科目です。地学現象をよく理解するためには，自分なりの考えをもって授業にのぞむことがとても大切になります。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

授業中は私語は厳禁です。ただし，質問は何時でもして下さい。自分なりの考えや予想を訪ねられたときは，しっかり答えて下さい。また，授業中に，他の教科の課題やノートの写しなどを目を盗んで作業するようなずるいことは厳禁です。実習では文字を丁寧に書き，スケッチもすぐにあきらめずできる限り丁寧に描くよう心掛けて下さい。ノートの文字も丁寧に書くことが重要です。授業中に使用したプリントはノートに授業の順序が分かるようにノリで貼りましょう。ノートには必ず記載した日付を付け，整然と整理すると後で読み返すとき便利です。

３　授 業 後　～　復習　～

授業後は授業で使用した教科書・ノート・資料集・問題集などしっかりと管理し，授業を受けたままにはしないことを勧めます。地学用語については定期考査に出題することになります。しっかり暗記して下さい。そのための復習はしっかりとテスト前に時間を確保して復習して下さい。

○ 評 価 の 方 法

１　考査について

考査（テスト）は毎回実施します。しっかり勉強して臨んで下さい。
下記の観点に基づいて１００点満点で評価を行います。定期考査の割合は８０％を原則とします。また授業態度，実習への取り組み，提出課題の内容を重視します。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	作図等	提出物	実験観察	定期考査
関心・意欲・態度	自然の事物・事象に関心を持ち，それらを学的に探究しようとしている。	○	○	○	○	◎
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，事象を科学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現している。	○	◎	○	○	◎
観察・実験の技能	実験・観察を行い，自然の事物・現象を科学的に探究することができる。	○	○	◎	◎	
知識・理解	自然の事物・現象に対する，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，知識が身についている。	○	○	○	○	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
理科	地学基礎	2年 選択	2	地学基礎 （数研出版）	改訂版リードLightノート地学基礎(数研出版) ニューステージ地学図表（2020年度版） （浜島書店）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 （どのようなことを身に付けたいか）	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	第1編　惑星としての地球 第1章　太陽系の中の地球	5	太陽系の天体 地球の誕生	・太陽系の構造と，地球が太陽系の惑星であることを理解する。さらに，地球の誕生初期に起きた現象についても理解する。	A・B・C
5		第2章　地球の形と大きさ	5	地球の形と大きさ	・地球の形状について，測量の歴史を概観しながら理解する。	A・B・C
		第3章　地球の構造	2	地球の構造	・地球内部の層構造と，それぞれの層の特徴を理解する。また，層構造形成の過程も理解する。	A・B・C
6		第2編　活動する地球 第1章　プレートテクトニクス	5	プレートテクトニクス	・プレートの運動と地表面の形が密接に関連することを学び，地球上の地学現象をプレートの運動と絡めて理解する。	A・B・C
	考査		1			
7	第二回考査範囲	第2章　火山	4	火山活動	・世界の火山の分布を理解する。また，マグマの性質と火山様式，形成される岩石の関係も合わせて理解する。	A・B・C
		第3章　地震と地震活動	4	地震 変成作用	・世界の地震の分布を理解する。また，地震波の性質と発生の仕組みや観測方法を理解する。	A・B・C
8		第4編　移り変わる地球 第1章　地層の形成	4	堆積作用と堆積岩 地層の形成	・地層の重なりが時間経過を示していることを理解する。また，地質構造の変形から，過去に起こった地殻変動を予測できることを理解する。	A・B・C
9		第2章　古生物の変遷と地球環境	4	地質時代の区分と化石 古生物の変遷	・先カンブリア時代に起こった地球の大気変化と，生命の誕生や進化の関係を理解する。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回考査範囲	第3編　大気と海洋 第1章　地球の熱収支	5	大気の構造 地球全体の熱収支	・太陽放射と地球放射によって，地球全体のエネルギー収支がバランスをとっていることや，大気中で起こる現象を理解する。	A・B・C
		第2章　大気と海水の運動	5	大気の大循環 海水の運動	・地球表面の7割を覆う海水にも，層構造があることを理解する。海水の循環である海流と，地表における水循環について理解する。	A・B・C
11		第5編　地球の環境 第1章　環境と人間	4	環境と人間 地球環境問題	・人間が環境に与える影響を理解し，共存していく方法を考える。	A・B・C
		第2章　日本の自然環境	3	日本の自然環境 日本の自然災害	・日本列島の地形やその特徴について，気候と結び付けて理解する。	A・B・C
12	考査		1			
1	第四回考査範囲	第6編　宇宙の構成 第1章　太陽と恒星	8	太陽の活動 太陽の一生と恒星	・太陽の光球面や太陽大気で起こっている現象を学び，太陽の特徴を理解する。 ・太陽の明るさや質量，大きさなどの特徴を理解する。 ・太陽がどのように誕生し，どのように進化するのかを理解する。 ・太陽のエネルギー源について理解する。	A・B・C
2		第2章　宇宙のすがた	9	宇宙の構造 宇宙の誕生	・宇宙誕生後，ビッグバンにより宇宙の膨張が始まり，38万年後には宇宙の晴れ上がりが起こったことを理解する。 ・私たちがいる太陽系は銀河系に属していること，また，銀河系の構造について理解する。	A・B・C
	考査		1			
3					新年度の準備	

２年化学基礎

○ 学 習 の ね ら い

・物質の基本的な単位である原子，原子から構成される分子や結晶，化学反応やその量的関係について，実際の物質や化学反応と合わせて理解する。また，実験を通して化学反応等の現象を科学的にとらえる力を養う。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

まずは教科書を読みましょう。そして，わからないところに下線やマーキングをするなど，授業での理解が必要なところを明らかにする。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

・授業は講義形式で行います。疑問点をそのままにしておくと，理解出来ないまま授業が進んで行きますので，**わからない箇所こそ積極的に発言すること。**

・実験は危険な薬品を多く扱います。白衣の用意を忘れず，指示を良く聞きそれに従うこと。

３　授 業 後　～　復習　～

・教科書や問題集の問題を解き，知識を確実なものとしましょう。

※化学は暗記科目ではありません。従って，試験も覚えたから解ける問題ではなく，理解している事が大切になります。試験１～２週間前に集中して学習するよりも，毎日短時間で良いから，予習，復習を心掛けましょう。

※毎日，家の手伝いをしましょう。食品，洗剤，日用品について化学的に取り上げた授業となります。

○ 評 価 の 方 法

※下記の観点に基づいて100点満点で評価を行い，定期考査の割合は80%とします。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	実験 ﾚﾎﾟｰﾄ	課題 ノート 等	定期考査
関心・意欲・態度	自然の事物・事象に関心を持ち，それらを科学的に探求しようとしている。	○	◎	
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし，事象を科学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現している。	◎	○	○
観察・実験の技能	実験・観察を行い，自然の事物・現象を科学的に探究することができる。	◎		
知識・理解	自然の事物・現象に対する，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，知識が身についている。	○		◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
理科	化学基礎	2年	2	高等学校　改訂　新化学基礎 （第一学習社）	改訂ネオパルノート化学基礎 （第一学習社）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	**第Ⅰ章　物質の構成** 1 物質の成分と構成要素	10	・混合物の分離の方法と特徴について学習する。また，元素の特徴や化合物について学習する。 ・原子の構造と周期表について学習する。また，元素の性質と周期表との関連性について学習する	・その混合物における適切な分離方法を選択できるようになる。また，主要元素の元素記号を暗記するとともに，化合物の特徴を理解する。 ・原子の構造と原子番号や質量数との関係を適切に理解する。元素の性質，価電子数と周期表における規則性について理解する。	A・B・C A・B・C
		2 化学結合	6	・化学結合の特徴を学習する。また，結晶や分子の特徴も関連して学習する。	・イオン結合，共有結合，金属結合，配位結合，分子間結合，水素結合について，原子や最外殻電子の配置と合わせて理解する。また，結晶や分子の特徴と関連させることができる。	A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	**第Ⅱ章　物質の変化** 1 物質量と化学反応式	16	・原子量，分子量，式量について学習する。また，物質量と化学反応式における量的関係について関連づけて学習する。	・原子量および分子量，式量について理解するとともに，原子量から分子量または式量を計算で求めることができる。 ・物質量について理解するとともに，化学反応における物質量，質量，気体の体積の関係を適切に理解する。また，溶液の濃度を計算ができるようになる。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	2 酸・塩基とその反応	15	・酸と塩基の基本的な性質と中和反応について学習する。また，水素イオン濃度や中和の量的関係中和滴定についても学習する。	・酸と塩基の性質や特徴的な反応について理解する。また，濃度や中和における量的関係を計算で求めることができるとともに，中和滴定の実験方法を理解する。	A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第四回考査範囲	3 酸化還元反応	5	・酸化・還元の定義について学習する。	・酸化，還元の定義について理解すると共に，化学反応について酸化・還元されているものを見分けることができる。	A・B・C
			5	・酸化剤・還元剤の役割や利用についての学習を行う。	・化学反応における酸化剤や還元剤について理解すると共に，半反応式と電子の授受について理解する。	A・B・C
			5	・基礎的な電池について，イオン化傾向と関連して学習する。	・電池の仕組みを理解するとともに，それぞれの電池の特徴を捉えることができる。	A・B・C
	考査		1			
3			4	・電気分解について，イオン化傾向と関連して学習するとともに，ファラデーの法則や量的な関係についての学習も行う。	・電気分解の仕組みを理解すると共に，電気分解の電気量と析出する物質の量を適切に計算することができる。	A・B・C

２年　体育（男子）

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

1　基本的な運動技術を身につけ，運動の楽しさや喜びを味わうことが出来る。
2　常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
3　スポーツを通しての人間関係や，ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

1　授業前　～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え，ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2　授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し，素早い行動を心掛けること。

3　授業後　～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

1　考査・評価について
・評価は各期，以下の項目と観点に基づいて 100 点満点で行う。
・運動の技能，知識・理解：①技能の修得　②実技テスト　③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで５割とする。
・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①,②,③で５割分とし，総合的に判断して行う。
・その他：　基本的に授業の 1／3 欠席＝49 点以下，1／2 欠席＝39 点以下，2／3 欠席＝19 点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。　記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	実技ｽｷﾙ	実技ﾃｽﾄ	出席状況
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正，協力，責任などの態度を身に付けるとともに，健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して，運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え，工夫している。また，個人生活や社会生活における健康・安全について，課題解決を目指して考え，判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに，体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し，知識を身に付けている。また，個人生活及び社会生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
保健体育	体育	2学年男子	2	最新高等保健体育（大修館書店）	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	オリエンテーション スポーツテスト 体つくり運動（毎時間） 体育理論（各種目ごと） サッカー中級 （体育理論を含む）	1 4 15	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明などを行う ドリブル・パス・シュートの技術向上について	授業内容や評価方法について理解する 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。 個人だけではなくチームでの技術向上を目指し、円滑にゲームができるようになる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査					
7 8 9	第二回考査範囲	水泳 ソフトボール中級 （体育理論を含む）	5 15	自由形・平泳ぎについて 水慣れ、バタ足、ビート板を使った練習 基本技術の習得とルールの理解について	自由形・平泳ぎの泳法を身に付け、泳げる距離や時間を延ばす。 ルールの理解とキャッチボール・バッティング等の基本技術ができるようになる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査					
10 11	第三回考査範囲	バレーボール中級 （体育理論を含む）	15	レシーブやスパイク、三段攻撃について	個人のスキルだけではなく協力して三段攻撃などができるようになる。	A・B・C
	考査					
12 1	第四回考査範囲	バスケットボール中級 （体育理論を含む）	11	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とドリブル・パス・シュートなどをスムーズに行うことができる。	A・B・C
2		ニュースポーツ	4	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し，身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C
	考査					
3						

２年　体育（女子）

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

1　基本的な運動技術を身につけ，運動の楽しさや喜びを味わうことが出来る。
2　常に自分の体の状態や変化を観察できるようになる。
3　スポーツを通しての人間関係や，ルールやマナーの重要性を知る。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

1　授業前　～ 予習 ～
・授業に向けての準備と服装を整え，ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2　授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・常に安全に留意し，素早い行動を心掛けること。

3　授業後　～ 復習 ～
・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

考査・評価について

・評価は各期，以下の項目と観点に基づいて 100 点満点で行う。
・運動の技能，知識・理解：①技能の修得　②実技テスト　③ゲームでの評価（動き・知識の理解等）
④取組みで５割とする。
・授業態度等：①関心・意欲・態度・思考・判断・表現を観点とする。
②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
③出席状況（欠席・遅刻・早退）病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価する。
上記①,②,③で５割分とし，総合的に判断して行う。
・その他：　基本的に授業の 1／3 欠席＝49 点以下，1／2 欠席＝39 点以下，2／3 欠席＝19 点以下になる。

※評価の観点は以下のとおり。　記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	実技スキル	実技テスト	出席状況
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正，協力，責任などの態度を身に付けるとともに，健康・安全に留意して自ら運動しようとする。	◎	◎	○	◎
思考・判断・表現	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して，運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え，工夫している。また，個人生活や社会生活における健康・安全について，課題解決を目指して考え，判断している。	◎	○	○	◎
運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに，体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	○	◎	◎	◎
知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し，知識を身に付けている。また，個人生活及び社会生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。	◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
保健体育	体育	2学年女子	2	最新高等保健体育（大修館書店）	ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	オリエンテーション スポーツテスト 体つくり運動（毎時間） 体育理論（各種目ごと）	1 4	授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・ｼｬﾄﾙﾗﾝ・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明などを行う	授業内容や評価方法について理解する 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるか理解する 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C A・B・C
5		ソフトテニス中級 （体育理論を含む）	15	色々なボールの打ち方について	試合をするときの打ち方の使い分けや動き方についてできるようになる。	A・B・C
6	考査					
7	第二回考査範囲	水泳 フットサル中級 （体育理論を含む）	5 15	自由形・平泳ぎについて 水慣れ、バタ足、ビート板を使用した練習 ボールの蹴り方からパスの連携 パス連携からのシュート シュートからのディフェンス	自由形・平泳ぎの泳法を身に付け、泳げる距離や時間を延ばす。 パス・シュート・ディフェンスなどの基本的な動き方ができる。またその連携した動きができるようになる。	A・B・C A・B・C
8						
9	考査					
10	第三回考査範囲	バレーボール中級 （体育理論を含む）	15	レシーブやスパイク、三段攻撃について	個人のスキルだけではなく協力して三段攻撃などができるようになる。	A・B・C
11	考査					
12	第四回考査範囲	バスケットボール中級 （体育理論を含む）	11	基本技術の習得とルールの理解について	ルールの理解とドリブル・パス・シュートなどをスムーズに行うことができる。	A・B・C
1						
2		ニュースポーツ	4	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し，身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C
	考査					
3						

２年　保健

○ 学 習 の 目 的 と ね ら い

1　社会の一員として健康の問題を考える力を養う。
2　健康的な生活習慣を身につける。
3　健康に好ましい環境を作るための知識と能力を高める。

○ 学 習 方 法 と 授 業 の 注 意 点

1　授業の前　～ 予習 ～
・事前に教科書を読み，内容を把握すること。

2　授業中 ～ 授業中の注意点 ～
・教科書，保健ノートと事前に配布される教材プリントを比較・確認しながらその要点を捉えること。

3　授業後　～ 復習 ～
・プリント・ノートへの記入漏れなどがないか確認する。

○評価の方法（考査のポイント・注意事項と平常点の付け方）

・考査は第２回・第４回の計２回行う。
・下記の観点に基づいて 100 点満点で行う。

※評価の観点は以下のとおり。　※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	提出物	定期考査	出席状況
関心・意欲・態度	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとしている。	◎	○	◎	◎
思考・判断	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決をめざして総合的に考え，判断し，それらを表している。	◎	○	◎	◎
知識・理解	現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	◎	○	◎	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
保健体育	保健	2年 全クラス	1	最新高等保健体育 （大修館書店）	最新高等保健体育ノート （大修館書店）	35

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	オリエンテーション	1	1年間の予定授業の進め方等を説明する	1年間の流れを理解する。	A・B・C
		生涯を通じる健康				
		1. 思春期と健康	2	心身の発達と発達や健康課題について	性的成熟に伴う心理面、行動面の変化について理解する	A・B・C
		2. 性への関心・欲求と性行動	2	思春期の性に対する関心や欲求について	選択する性行動は、自分だけの問題ではないことを理解する	A・B・C
5		3. 妊娠・出産と健康	2	出産までの母体の変化子供への影響について	妊娠・出産は女性にとって大変な労力であることを理解する	A・B・C
		4. 避妊法と人工妊娠中絶	2	避妊方法や人工妊娠中絶について	望まない妊娠は絶対に避けることを理解する	A・B・C
		5. 結婚生活と健康	2	健康な結婚生活の条件について	家族を築く出発点が結婚であることを理解する	A・B・C
6	考査					
7	第二回考査範囲	6. 中高年期と健康	1	中高年期の生活習慣について	加齢に伴う心身の変化を形態面と機能面から理解する	A・B・C
		7. 医薬品とその活用	1	医薬品の使用法や副作用について	医薬品の安全性を高めるための役割について理解する	A・B・C
		8. 医療サービスとその活用	1	医療費や病院の選択について	医療機関の選択や医療ｻｰﾋﾞｽの受け方について理解する	A・B・C
		9. 保健サービスとその活用	2	疾病予防や健康の保持増進について	保健行政の仕組み保健サービスについて理解する	A・B・C
8		10. さまざまな保健活動や対策	2	日本赤十字などの民間機関の活動について	健康にかかわるﾍﾙｽﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝの考え方を理解する	A・B・C
9	考査		1			
10	第三回考査範囲	社会生活と健康				
		1. 大気汚染と健康	2	大気汚染の原因について	大気汚染や健康被害に対する改善方法を理解する	A・B・C
		2. 水質汚濁・土壌汚染と健康	2	水質汚濁・土壌汚染の原因について	水俣病やｲﾀｲｲﾀｲ病などを通し、環境問題を理解する	A・B・C
		3. 環境汚染を防ぐ取り組み	2	大気・水・土壌が関連して起こる健康被害について	法律にもとづき、環境汚染防止方法を理解する	A・B・C
11		4. ごみの処理と上下水道の整備	2	循環型社会について	循環型社会への取り組みについて理解する	A・B・C
	考査					
12	第四回考査範囲	5. 食品の衛生を守る活動	2	食品の安全確保の方法について	食品の安全性の確保の為の法律や制度などを理解する	A・B・C
		6. 働くことと健康	2	健康問題や労働災害について	働くことによって起こるけがや病気について理解する	A・B・C
		7. 働く人の健康づくり	2	職場の健康・安全管理について	心身両面にわたる総合的・積極的な活動について理解する	A・B・C
1						
2	考査		1			
3		新年度への準備	1	新年度の授業内容について	新年度の授業内容を理解する	A・B・C

２年　数学Ｂ

○　身につけてほしい学力

平面上のベクトル，空間のベクトルおよび数列の性質について理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察して処理する能力を育むとともに，数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

※数学Ｉの履修認定を受けた者が数学Ｂを履修できます。

※進度によって学習内容が変更する場合があります。

○　学習方法

１．授業の前～予習～

予習では「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。部活動などで疲れてしまって，仮に一つの科目にわずかな時間しか予習時間がとれない場合でも，次の授業で進むと予想される箇所全体に目を通しておくことは最低限しておくべきです。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。その代わり，前回学んだことをしっかり思い出し，次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

２．授業中～授業中の注意点～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりすること。理解していなくても先生の説明通りに問題を解いて正解することもありますが，真の実力とはいえません。理解できたという実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。とりあえず「板書事項だけをノートに写しておく」人もいますが，それだけでは考査前に役に立たないことが多いです。大事なことはしっかりメモし，後から見ても分かるノート作りをしましょう。

３．授業後～復習～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。空いている時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く解くことも大事ですが質も重視したいです。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は，のちに大きな力となります。

○　評価の方法

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で，問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み，実力を確かなものにして臨んで下さい。定期考査に迫られ，その場限りの学習しかしてこなかったという人は計画立てて実行する習慣も養いましょう。

定期考査の割合は７０％以上を原則として，下記の観点に基づいて１００点満点で総合的に評価を行います。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	学習の観察状況	発表等	提出物	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心を持ち，それらを数学的に探求しようとしている。	○	◎	◎		
数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察するとともに，導き出した考え方を的確に表現・処理している。	○			○	◎
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する方法や，推論の技能などを身につけている。	○	○		○	◎
知識・理解	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，知識が身についている。	○			○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
数学	数学B	2年 選択	2	新編　数学B （第一学習社）	ビルドアップ　数学B （第一学習社）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 （どのようなことを学ぶのか）	到達目標 （どのようなことを身に付けたいか）	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第1回定期考査範囲	1章　平面上のベクトル 1節　ベクトルとその演算 2節　平面図形とベクトル	12 5	幾何ベクトルについて、基本的な概念を理解し、図形としての意味と成分としての演算について学ぶ。 ベクトルの内積の基本的な概念や演算について理解し、平面図形の性質の考察にする。 位置ベクトルについて理解し、平面図形へ応用する。	幾何ベクトルの基本的な概念を理解する。図形としての意味と成分のとして演算ができる。 ベクトルの内積の基本的な概念や演算について理解し、平面図形の性質への応用ができる。 位置ベクトルについて理解し、平面図形へ応用ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第2回定期考査範囲	2節　平面図形とベクトル 2章　空間のベクトル 1節　空間のベクトル	7 10	ベクトルを用いて平面図形の性質を考察する。 直線や円のベクトルを用いた表し方を理解しベクトル方程式を導く。 空間の座標の表し方を理解する。 空間のベクトルの表し方や演算の仕方について理解する。 空間のベクトルの内積の基本的な概念や演算について理解し、空間図形の考察に活用できる。	直線や円のベクトルを用いた表し方を理解しベクトル方程式が解ける。 空間の座標の表し方ができる。 空間のベクトルの表し方や演算ができる。 空間ベクトルの内積の基本的な概念や演算について理解し、空間図形に応用できる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第3回定期考査範囲	3章　数列 1節　等差数列と等比数列 2節　いろいろな数列	11 6	数列の概念及び用語の意味を理解し、等差数列と等比数列についての一般項と和を求める。 自然数の2乗の和の求め方や記号Σの意味、性質、公式を理解する。	数列の概念及び用語の意味を理解し、等差数列と等比数列についての一般項と和を求められる。 自然数の2乗の和の求め方や記号Σの意味、性質、公式を用いて計算できる。	A・B・C A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第4回定期考査範囲	2節　いろいろな数列 3節　漸化式と数学的帰納法	7 7 3	数列の2項間の差に注目して階差数列を作るまた階差数列の一般項や和を求める。 漸化式とは何かを理解し、数列を漸化式で表し一般項や和を求める。 証明法として数学的帰納法の概念を理解する。数学的帰納法を利用して証明を行う。	階差数列の一般項や和を求められる。 漸化式とは何かを理解し、数列を漸化式で表し一般項や和が求められる。 証明法として数学的帰納法の概念を理解する。数学的帰納法を利用して照明ができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
3		課題研究	1 1	三角形の面積とベクトルについて考察する。 自然数の3乗の和について考察する。	三角形の面積をベクトルを用いて計算できる 自然数の3乗の和を計算できる。	A・B・C A・B・C

２年　音楽Ⅱ

○ 学 習 の ね ら い

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。音楽Ⅰでは、音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についても理解を深める。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

２，授業中 ～ 授業中の注意点 ～

① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
③ 楽器を伴う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

３，授業後　～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。
「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評 価 の 方 法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、レポート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技点が４０点～６０点、実技練習等への取り組み状況が３０～４０点、レポート提出点が１０～２０点となります。

※評価の観点は以下のとおり。
※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する，△：あまり重視しない）

観　点	評価項目 身に付けたい学力を観点別に整理し，以下に示します。	学習状態観察	実技練習取り組み	提出物	小テスト	実技テスト
音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	○	◎	○	△	◎
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら，音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	○	◎	◎	△	◎
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、創造的に表している。	○	◎	△	◎	◎
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	○	△	○	◎	△

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
芸術	音楽Ⅱ	２年 選択	２	MOUSA2 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5	第一回考査範囲	**①ギターの演奏法を覚えよう⑴** ①－１　かっこう **②世界のポピュラー音楽を知ろう** ②－１　歌唱「アメイジング・グレイス」 ②－２　歌唱「シェリー」 ②－３　歌唱「パフ」	９ ９	①音楽Ⅰで取り組んだ演奏法を発展させ，コード演奏に取り組む。 ②旋律に沿って，伴奏する（コード演奏）の楽しさを学ぶ。 ①ポピュラー音楽に親しむとともに，曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し，表現の工夫しながら多様な表現形態による歌唱をする。	①コードを覚えるようにする。 ②アンサンブルや弾き語りの楽しさを味わわせる。 ①様々な表現形態による歌唱活動に関心を持ち，それらを生かして歌うことに主体的に取り組もうとしている。	A・B・C A・B・C
6	考査		なし			
6 7 8	第二回考査範囲	**③ミュージカルの音楽を演奏しよう** ③－１　「ウエストサイドストーリー」鑑賞 ③－２　歌唱「トゥナイト」 ③－３　リコーダー「アメリカ」	18	①英語の発音に気をつけながら，曲の持つ雰囲気に合わせて歌う。 ②リコーダーの演奏法を理解し，意欲的に演奏する。 ③ミュージカルの内容にあわせ，表現豊かに演奏する。	①英語の発音に気をつけながら歌うようにする。 ②リコーダーの演奏法について覚える。 ③表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持たせるようにする。	A・B・C
8	考査		なし			
10 11	第三回考査範囲	**④ギターの演奏法を覚えよう⑵** ⑤－１　「愛のロマンス」 **⑤音階を選んで旋律をつくろう** ⑤－１　五音音階による旋律の創作	９ ８	①これまでのギターの基礎的な奏法の修得を踏まえて，工夫しながら演奏する楽しさを味わう。 ①さまざまな音階の特徴を比較し，その良さを味わう。 ②音階の特徴を生かした旋律や副次的な旋律づくりに取り組む。	①アルペジオ奏法の技能を身につけ，創造的に演奏する。 ①さまざまな音階の特徴を理解する。 ②表現したいイメージにあった音階を選び，音楽構成などを考えるために必要な創作の技能を身につける。	A・B・C A・B・C
12	考査		なし			
12 1 2	第四回考査範囲	**⑥アンサンブル演奏に取り組もう** ⑥－１　グループアンサンブル ⑥－２　コンサート **⑦舞台音楽を楽しもう** ⑦－１　バレエ「白鳥の湖」	13 ４	①アンサンブルコンサートを実施し，各グループで選曲・構成し取り組む。 ②創意工夫をし，チームワークよく表現する喜びを味わう。 ③演奏発表をし，自分たちならではの音楽表現をする。 ①バレエの良さに気づき，主体的に鑑賞する。 ①登場人物の心情や場面の状況と音楽表現との結びつきを感じ鑑賞する。	①アンサンブルによる器楽の特徴や全体との調和を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身につけ，創造的に演奏する。 ②自分たちと他のグループ表現の違いなど気づき，講評する。 ①バレエの表現の特徴や文化的・歴史的背景を知る。 ①音楽や登場人物の身振りなどによって，どのように心情や場面の状況が表現されているか理解する。	A・B・C A・B・C
3	考査		なし			
3		これまでの授業のまとめ 新年度に向けて	２ ２			

２学年　美術Ⅱ

○　学　習　の　ね　ら　い

・美術Ⅰを基礎とした創造的な諸活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。

・感性を高め，個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深める。

○ 学 習 方 法

1　授業の前　～予　習～

教科書等の予習は必要ありませんが，自然や生活の中の造形の美しさを感じ取ったり，優れた絵画や映像，デザインに触れる機会を積極的に持つ等，日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また，課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイディアを出すヒントとなります。

筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁。携帯の電源は切って授業に臨んでください。

2　授　業　中　～授業中の注意点～

授業では多様な表現を学び，自分の作品として仕上げていきます。 常に“主体的に”集中して授業に取り組み，完成までの見通しを持って制作することが何より大切です。また，用具の手入れや後片付け，身の回りの清掃等は声がけがなくともしっかり行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

2　授　業　後　～復　習～

各課題の最後に，各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙・自己評価票」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく，どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。また美術Ⅱの授業の最後に，「ポートフォリオ」として作品化する課題がありますので，作品やコンセプト用紙を保管，または写真に撮っておくようにしてください。

○ 評 価 の 方法

各期の課題（提出作品，ワークシート，小テスト，アイディアスケッチ，エスキース，コンセプト用紙(含自己評価票)）と授業への取り組み（課題理解，関心・意欲・態度，主体性，準備・片付け等）を 100 点満点で評価する。

観　　点	評価項目 身につけたい学力を観点別に整理し,以下に示します。	提出作品，アイディアスケッチ，エスキース	ワークシート，小テスト，コンセプト用紙	授業への取り組み状況
美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい,多様な表現方法や美術文化に関心を持ち,主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	◎	◎	◎
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて,感じ取ったことや考えたこと,目的や機能,美しさなどから主題を生成し,創造的な表現の構想を練っている。	◎	◎	◎
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ,意図に応じて,表現方法を工夫している。	◎	◎	◎
鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し,そのよさや美しさを創造的に味わっている。	○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
美術	美術Ⅱ	2年 選択	2	高校生の美術2 （日本文教出版）	なし （　）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解(実践)できた B：まあまあ C：理解(実践)できなかった
4	第一回考査範囲	ガイダンス	1	年間計画説明/美術の見方 ・ 鑑賞（教科書・映像鑑賞）	・ 美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 ・ 教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C
4		静物デッサン	5	日本画制作の下図となる静物のモチーフを線と明暗で表す。	・ 対象をよく観察し、ものの比率や形態感を適切な構図で捉える。 ・ 明暗による立体感、空間感の表現を工夫し、実感を伴う素描表現を身に付ける。	A・B・C A・B・C
5		絵画 「日本画で描く」	12	箔の特徴や表現効果を理解する。静物デッサンを元に箔を押した画面に静物画を描く。 ・ 日本の美術、箔の技法 ・ 骨描き／箔押し／彩色について	・ 日本美術の特徴やその良さを理解し、箔の技法を各自の意図に応じて効果的に用いる。 ・ 静物デッサンの線や明暗を骨描きの線や墨の濃淡に生かしながら、実感がともなう下描きを描く。 ・ 背景の箔と日本画絵具の調和を考えながら、彩色を施す。 ・ 制作意図等をコンセプト用紙に明確に記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
6	考査		なし			
7	第二回考査範囲	銅版画 「イメージ構成」	12	モチーフから感じ取ったことから主題を生成し、銅版画の特性を生かして画面を構成する。 ・ 図や言葉によるイメージの連想 ・ 材料や用具の特性と扱い方 ・ 制作意図のプレゼンテーション、鑑賞における観察・論述について	・ 各自の意図に基づき、画面構成や構図、明暗のバランス等をアイディアスケッチ等で十分検討する。 ・ ニードルでの凹版や腐食、印刷方法を理解し、線の密度やタッチ等、表現方法を工夫し、絵画的な画面に仕上げる。 ・ 制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・ 他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
8		グラフィックデザイン 「VIデザイン」 ① アイディアスケッチ	4	VIデザインの目的や機能、条件と造形的な美しさとの調和を考え、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら創造的にデザインする。 ・ デザイン鑑賞／色彩学／構成プロセスについて	・ 日本や諸外国の優れたデザインを鑑賞し、デザインの役割や論理性を理解する。 ・ 造形性や象徴性、可読性に配慮し、デザインを構想する。	A・B・C A・B・C
9	考査		なし			
10	第三回考査範囲	② 描画ソフト演習	5	・ 描画ソフトの技法演習	・ 描画ソフトの技法を理解し、演習課題を正確に丁寧に仕上げる。	A・B・C
10		③ VIデザイン制作	12	描画ソフトの演習技法を応用し、各自のデザインをコンピューターで制作、コンセプト用紙によるプレゼンテーションを行う。	・ 描画ソフトの技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した形態と配色、仕上げの美しさを追求する。 ・ コンセプト用紙に制作意図を詳細に、分かりやすく記述する。	A・B・C A・B・C
11	考査		なし			
12	第四回考査範囲	クラフトデザイン 木工「スプーン制作」	16	日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・ 用途の設定、使用者の想定 ・ 材料や用具の特性と扱い方	・ 機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・ 意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げの美しさを追求する。 ・ コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・ 道具の扱いに注意し、片付けをしっかり行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
1						
2	考査		なし			
3		ポートフォリオをつくる	2	・ 美術Ⅰ・Ⅱの作品の撮影・構成 ・ コンピューターによるポートフォリオの作成	・ ポートフォリオの目的を考え、写真や文字を構成する。 ・ 可読性に配慮しページのレイアウトを行う。	A・B・C A・B・C

２年　コミュニケーション英語Ⅱ

○ 学 習 の ね ら い

英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

予習ノートを使って，教科書に載っている情報をつかむ。その際，辞書を十分に活用する。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

予習ノートの解答を確認しながら進めるので，赤ペンでチェックしながらスラッシュごとの意味を確かめる。５Ｗ１Ｈを念頭に授業の最後にそのセクションをリテリングできるように取り組み，年４回リテリングを利用したパフォーマンステストを行う。

３　授 業 後　～　復習　～

授業で学習した単語を発音し，意味を覚える。また，そのセクションの本文の意味を考えながら音読する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち，定期考査の割合は 80%を原則とする。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	学習状態の観察	発表等	提出物	小テスト	定期考査
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	◎	◎	○		
外国語表現の能力	外国語で話したり書いたりして，情報や考えなどを適切に伝えている。	○	◎	◎	○	◎
外国語理解の能力	外国語で聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。	◎	○	◎	○	◎
言語や文化についての知識・理解	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身につけているとともに，その背景にある文化などを理解している。	○	○	◎	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	2年全クラス	4	Revised LANDMARK English Communication（啓林館）	予習ノート（啓林館）・付属CD（啓林館） 英単語・熟語 Bricks 1/ Nothebooke of Essential Words（いいずな書店） ALL EARS vol. 1（美誠社）	140

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4 5 6	第一回考査範囲	Lesson 1 I'm the strongest. Lesson 2 Tokyo's seven-minute miracles Lesson 3 Saint Barnard Dogs	13 13 13	スポーツ・生き方 車椅子テニスプレーヤー，国枝慎吾選手 職業・日本文化 世界を驚かせた新幹線清掃チームTESSEI 動物・外国 スイスの国犬　セントバーナードの歴史	繰り返しを避けるための省略を使った英文を理解し，表現できる 過去完了進行形を理解し，表現できる 国枝選手の生き方や頑張っている姿勢を説明できる 強調のための倒置を使った英文を理解し，表現できる 形式目的語のitを使った英文を理解し，表現できる 新幹線清掃チームの取り組みについて説明ができる 受動態の分詞構文を使った英文を理解できる 完了形の分詞構文を使った英文を理解できる セントバーナードの歴史を説明できる	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
7 8 9	第二回考査範囲	Lesson 4 Chanel's Style Lesson 5 Science of Love	13 13	女性・生き方 ファッション界のカリスマ　シャネルの生き方 心理・科学 科学で説明する恋に落ちる原因	S+V+分詞/S+V+O+分詞を使った英文を理解し，表現できる 付帯状況with+O+Cを使った英文を理解し，表現できる シャネルの生き方を説明できる 同格のthat節を使った英文を理解し，表現できる 疑問詞+do you think (S) Vを使った英文を理解し，表現できる 恋に落ちる原因を科学的に説明できる	A・B・C A・B・C
	考査		1			
10 11	第三回考査範囲	Lesson 6 Gaudi and His Messenger Lesson 7 Letters from a Battlefield	13 13	芸術・生き方 建築家ガウディとその意志を継ぐ日本人彫刻家 戦争・平和 硫黄島の戦いと兵士からの手紙	関係副詞の非限定用法を使った英文を理解し，表現できる if節を用いない仮定法を使った英文を理解し，表現できる ガウディと意志を継ぐ日本人彫刻家について説明できる 譲歩を表す複合関係代名詞を使った英文を理解し，表現できる 動名詞の意味上の主語を使った英文を理解し，表現できる 硫黄島の戦いついて説明でき，戦争と平和についての考えを発信できる	A・B・C A・B・C
	考査		1			
12 1 2	第四回考査範囲	Lesson 8 Edo: A Sustanable Society Lesson 9 AI and Our Future Lesson 10 Bhutan:A Happy Country	14 14 14	環境・歴史 江戸時代のリサイクル社会 科学・生活 AI技術が切り開く未来 外国・国際社会 幸福な国　ブータン	注意すべき関係代名詞の非限定用法を使った英文を理解し，表現できる 独立分詞項文を使った英文を理解できる 江戸時代のリサイクル社会ついて説明でき，持続可能な社会についての考えを発信できる。 as if[though]+仮定法を使った英文を理解し，表現できる 助動詞+have+過去分詞を使った英文を理解し，表現できる。。 AI技術が切り開く未来ついて説明でき，AIと未来に関する考えを発信できる。 強調構文を使った英文を理解し，表現できる 副詞節中の<S+be>の省略を使った英文を理解し，表現できる ブータンついて説明でき，幸福とは何かに関する考えを発信できる	A・B・C A・B・C A・B・C
	考査		1			
3		新年度の準備 My Education, My Future	3	教育・生き方 オバマ大統領が高校生に送ったスピーチ	物語のあらすじを理解し、説明することができる	A・B・C

２年　英語表現Ⅱ

○ 学 習 の ね ら い

①既習の文法事項を活用して、様々なことを英語で表現し、コミュニケーションする姿勢を養う。
②異文化をよく理解し、積極的に取り入れ、多様な観点から自分の意見を表現する力を身につける。

○ 学 習 方 法

１　授業の前　～　予習　～

①教科書本文の、意味のわからない単語や語句を辞書で調べる。
②学習する文法事項を確認する。
③教科書本文を数回音読する。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

①きちんと説明を聞き、板書事項だけではなく、口頭による説明で大事なところはノートに書く。
②理解できない事項は質問し、確認する。
③コミュニケーション活動に積極的に取り組む。

３　授 業 後　～　復習　～

①学習事項を、ノート等で確認する。
②教科書やプリント等の練習問題をもう一度解く。
③学習した英文を数回音読する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	スピーキング	ライティング	リスニング	小テスト	定期考査
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動に取り組む。	◎	◎	◎	◎	◎
英語表現の能力	英語で話したり書いたりして、自分の意見を表現する。	○	◎	○	◎	◎
英語理解の能力	英語で聞いたり読んだりして、話し手や聞き手の意見を理解できる。	○	○	◎	◎	◎
言語や異文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語の知識やその運用能力を身につけるとともに、その文化背景も理解する。	○	○	○	◎	◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
外国語	英語表現Ⅱ	全	2	Vision Quest English Expression Hope 61 啓林館　英Ⅱ　323	スクランブル英文法・語法 Scramble Basic 3rd Edition 旺文社	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	Lesson1 伝統行事がいくつもあるのね。	7	・主語の決定/見えない主語の発見/主語it ・主語になる名詞句/形式主語/無生物主語	・文の中の主語をきちんと把握し、理解できる。	A・B・C
5		Lesson2 職業体験はどうだった？	7	・自動詞と他動詞/SVO/SVOO/SVC/SVOC	・文の中の補語、目的語を理解し、整然とした文章を作ることができる。	A・B・C
		Grammar Focus①②	2			A・B・C
	考査		1			
7	第二回考査範囲	Lesson3 話したいことがあるんだ。	7	・使役動詞/知覚動詞 ・動詞＋O＋to do	・使役（～させる）と知覚（～を知覚する）の意味を理解し、文章を作ることができる。	A・B・C
8		Lesson4 航空管制官として働きたいんだ。	7	・現在形/過去形 ・現在進行形/過去進行形	・現在形過去形と進行形の違いを理解できる。	A・B・C
9		Grammar Focus③④⑤	3			A・B・C
	考査		1			
10	第三回考査範囲	Lesson5 そんな経験をもう一度したいわ。	7	・義務・必要を表す助動詞/推量を表す助動詞 ・仮定法過去/仮定法過去完了	・一つの助動詞に複数の意味があることが理解できる。 ・時世の概念が理解できる。	A・B・C A・B・C
11		Lesson6 これはカナダのﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰで撮った写真なんだ。	7	・関係代名詞/関係副詞	・先行詞の違いによって使い分けることができる。	A・B・C
		Activity for Communication ①②③	3			A・B・C
	考査		1			
12	第四回考査範囲	Lesson7 携帯電話は私たちの生活になくてはならないもの？	7	・副詞・副詞句/不定詞や分詞を使った副詞句/副詞節	・句と節の違いが理解でき、判断できる。	A・B・C
1		Lesson8 犬と猫どっちが好き？	7	・原級/比較級 ・最上級/最上級を意味する表現	・比較級の概念が理解できる。 ・比較級で最上級を表現することができる。	A・B・C A・B・C
2		Activity for Communication ④⑤	2			A・B・C
	考査		1			
3		新年度の準備				

令和２年度　宮城県宮城広瀬高等学校英語科 Can-Do リスト

	読むこと	評価方法	CEFR	聞くこと	評価方法	CEFR	書くこと	評価方法	CEFR	話すこと（やりとり）	評価方法	CEFR	話すこと（発表）	評価方法	CEFR
1年前期	辞書の引き方（品詞の別）がわかる。「～禁止」等の短い簡単な指示を読み，理解することができる。 辞書を使えばスラッシュごとの意味を理解することができる。	授業	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および趣味や部活動などの身近なトピックに関する短い話を，ゆっくりはっきりと話されれば，主要なメッセージである場所や時間等の重要かつ具体的な情報を聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	自分のこと（趣味・好き嫌いなど）や身近で簡単な事柄について，語彙や例文を参考に正確に書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基礎的な定型表現を用いて，時間・日時・場所についての質問や，限られた個人情報についての質問をすることができる。 またそれらの質問に適切な表現を用いて答えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	定型表現や例文を参考に趣味・家族・好き嫌いや基本的な情報（時間・場所など）について，基本的な語句や表現を用いて，伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
1年後期	簡単なポスターや招待状などに日常生活で使われる短い簡単な文章を読み，理解することができる。 簡単な複文を読み，その内容を理解することができる。	授業・小テスト・定期考査	A1	自分や学校・地域などの身の回りの事柄および買い物や食事など外で活動する上で必要な指示や説明を，ゆっくりはっきりと話されれば，主要なメッセージに加えて，付属的な情報をほぼ聞き取ることができる。	授業・定期考査	A1	日常の話題について，多くの支援を活用すれば，基本的な語句や表現を用いて情報・考え・気持ちなどを伝える短文２０～３０語程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	なじみのある/基本的な語や言い回しを用いて，日常会話レベルの簡単な質問/単純な応答のやりとりをすることができる。 Ex：様々な事柄の好き嫌いに関する意見交換	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば，身近な話題についての簡単な意見や日常生活の出来事について，基本的な語句や表現を学習した構文を用いて言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2年前期	簡単な語を用いて書かれた，個人的に興味のある文章を，イラストや写真も参考にしながら理解することができる。	小テスト・定期考査	A1	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど，高校生にとって比較的平易な社会的な話題を，ネイティブにとってやや遅いスピードで話されれば，主要なメッセージは聞き取ることができる。	授業・定期考査	A2	日常的な話題について支援を活用すれば， 場面・状況に応じて，語句・表現を用い,and but,or などの接続詞や，if,when などの時・条件節を活用し,自分の意見を３文程度で書くことができる。	授業・課題・定期考査	A1	趣味や部活動・家事など，従事していることや没頭していることについて紹介したり，簡単な構文を用いた感想および疑問詞を用いた質疑応答をしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	A1	前もって発表の準備をすれば，身近な話題や日常生活に関する簡単な事実について，基本的な語句や表現を学習した構文を用いて，筋道立てながら言うことができる。	授業・パフォーマンステスト	A1
2年後期	簡単な語を用いて書かれた人物描写，場所の説明，文化の紹介などの，説明文を理解することができる。	小テスト・定期考	A2	学校の事柄・個人的な旅行の日程・スポーツ・料理などの身近な話題および公共の場でのアナウンスなど，高校生にとって比較的平易な社会的な話題を，ネイティブにと	授業・定期考査	A2	自分に直接かかわりのある環境（学校・地域・社会）での出来事を見たり，聞いたりした意見を支援を活用し，基本的なディスコースマーカー	授業・課題・定期	A2	写真や地図などとともに，first/then/next などのマーカーを用いながら，順序立てて説明することができる。	授業・パフォーマ	A2	写真や地図を利用し，簡単な語句や文を用いて，趣味や特技で話を膨らませながら自分のことについて紹介したり，学校や地域などについて話したりすることができる。	授業・パフォーマ	A2

		査		ってやや遅いスピードで話されれば，主要なメッセージに加えて，付属的な情報をほぼ聞き取ることができる。			を用い３文程度で書くことができる。	考査			ンステスト			ンステスト	
３年前期	関係詞，仮定法など複雑な文法項目が入った文章でも全体の意味を理解することができる。スラッシュ同士のつながりを理解することができる。	小テスト・授業・定期考査	A2	高校生にとってやや複雑な内容である，外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて，ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて，主要なメッセージは，曖昧な部分がありながらも，推測し把握することができる。	授業・定期考査	B1	社会的な話題について，事前の準備で一定の支援を活用すれば，自分の意見を基本的なディスコースマーカーを活用し論理性に注意して伝える文章を書くことができる。	授業・課題・定期考査	A2	簡単な英語で，ものごとに対しての，賛成・反対および付随する自分の考えや気持ちを，定型表現を用いて伝えることができる。 （＋α） また他と比較をしながら客観的な情報を伝えることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2	簡単な語句や文を用いて，自分の意見や予定・計画を，理由を挙げながら述べることができる。	授業・パフォーマンステスト	A2
３年後期	抽象的な内容の文でも，自分で内容を整理しながら理解することができる。自分に必要な情報をやや長い文章から取り出すことができる。	小テスト・定期考査	B1	高校生にとってやや複雑な内容である，外国の社会や習慣・国際問題などの説明や天気予報・空港などのアナウンスについて，ネイティブにとって普通に近いスピードで話される少し長めの内容を聞いて，付属的な情報は少し曖昧でも，主要なメッセージは把握することができる。	授業・定期考査	B1	社会的な話題について，聞いたり，読んだりしたことを基に，基本的な語句や例文を用いて一定の支援を活用すれば，論理性のある内容を５０～８０語程度の文章を書くことができる。	授業・課題・定期考査	B1	自分の従事していること（趣味・部活動・家での暮らし）について，簡単な英語を用いて，多くの情報を伝えたり，それに対しての意見や気持ちなどをやりとりしたりすることができる。	授業・パフォーマンステスト	B1	前もって発表の準備をすれば，使える語句や表現を活用して，自分の夢や経験を順序立てある程度詳しく話したり，関心のある社会的な出来事について聞き手を混乱させないように伝えたりできる。	授業・パフォーマンステスト	B1

CEFR	スコア　実用英語技能検定					スコア　GTEC				TEAP
B2	2599 ｜ 2300				準1級	1349 ｜ 1190			Advanced	374 ｜ 309
B1	2299 ｜ 1950			2級		1189 ｜ 960		Basic		308 ｜ 225
A2	1949 ｜ 1700		準2級			959 ｜ 690	Core			224 ｜ 135
A1	1699 ｜ 1400	3級				689 ｜ 270				

２年　家庭基礎

○ 学 習 の ね ら い

・人の一生と家族，福祉，衣食住，消費生活に関する基礎的・基本的知識と技術を身につけることができる。

・家庭や地域の生活課題を主体的に解決できることや，生活の充実向上を図る能力と実践的な力を身につけることができる。

○ 学 習 方 法

１　授 業 前　～　予習　～

座学では，前回の授業プリントを確認し，教科書を一通り読んでおくこと。

実習については，実習の目的と内容を確認し，手順を頭に入れておくこと。

２　授 業 中　～　授業中の注意点　～

座学では，板書のみならず口頭での説明も聞き，大切なことはメモを取りながら受ける。

実習では，先生の指示をふまえて，積極的・自主的かつ安全に配慮して行動する。

３　授 業 後　～　復習　～

座学では，プリントがまとめられているかを確認し，不十分な所は先生に質問して補っておく。

実習では，まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄などないようにきちんと書き上げること。また，新たな発見や失敗の原因などなどにも触れておくこと。

○ 評 価 の 方 法

・１年間で定期考査を４回行う。実技テストを加えることもある。

・定期考査では，どれくらいの知識が定着しているか等を，提出物や授業・実習態度では，学習に対する関心・意欲等を中心に評価する。

※下記の観点に基づいて１００点満点で評価を行う。このうち定期考査の割合は７０～８０％とする。

観　　点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し，以下に示します。	学習態度	発表等	提出物	実習態度	定期考査
関心・意欲・態度	人とのかかわり，衣食住などの生活，経済的な観点において意欲的に学習に取り組もうとしている。	○	◎	◎	◎	◎
思考・判断・表現	自分や家族，家庭，地域の生活にかかわる課題を見つけ，課題解決のため思考を深めて，工夫したり創造したり自分の考えをまとめ，判断できる。	○	○	◎		◎
技能	自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけることができる。	○	○	○	◎	
知識・理解	自分や家族・家庭，地域社会の役割を理解し，生活の充実向上に必要な，基礎的・基本的な知識を身につけている。	○	○	○		◎

※記号の凡例（◎：特に重視する，○：重視する　）

教科	科目	クラス	単位	使用教科書（発行所）	使用副教材（発行所）	総時間数
家庭	家庭基礎	2年 全員	2	家庭基礎 ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟでつくる未来 （　実教出版　）	2020最新 生活ハンドブック　資料&成分表 （　第一学習社　）	70

年間授業計画

月	考査	単元（授業展開）	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった
4	第一回考査範囲	オリエンテーション	1	家庭基礎を学ぶにあたって		
		第1編　人とかかわって生きる 1章　自分らしい生き方と家族	5	1自分を見つめる 2自立した生き方，共に生きる人生 3共に生きる 4家族に関する法律 5私たちを支える労働と生活時間	・自分の生涯を見通して人の一生について考え，ライフステージごとの特徴を・課題を理解する ・変化する家族・家庭について学習し，現在の家族の抱える課題などを理解する ・家族に関する法律について学習し理解する ・生活時間からみた現在の課題について考える	A・B・C
5		2章　子どもとかかわる	8	1子どもを知る 2発達のすばらしさ 3子どもの生活 4親になることを考えよう	・子どもの誕生，子どもの心身の発達と特徴，子どもの生活や遊びについて理解する ・現在の子どもをとりまく環境を知り，子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する	A・B・C
6		3章　高齢者とかかわる	3	1高齢社会に生きる私たちの暮らし 2高齢者を知る 3豊かな高齢期を迎えるしくみ	・高齢社会の現状と課題，高齢者の心身の特徴や生活について理解する	A・B・C
	考査		1			
7	第二回考査範囲	4章　社会とかかわる	4	1支えあう暮らしとは 2私たちの社会福祉	・個人や家庭生活を支える社会保障制度や社会福祉の重要性を理解する	A・B・C
8		第2編　生活をつくる 1章　食生活をつくる	13	1私たちの食生活 2栄養と食品のかかわり 3食品の選び方と安全 4食事の計画と調理 調理実習	・栄養素の種類と働きや食品の基礎的な知識を理解する ・食品の選択，食中毒，食品添加物について理解する ・実習を通して，調理に関しての基礎的な技術を身につけ，食事マナーを知り，楽しく食事ができるようにする	A・B・C A・B・C
9						
	考査		1			
10	第三回考査範囲	第3編　消費者として自立する 1章　消費行動を考える	4	調理実習 5これからの食生活を考える	・食品の自給率や食に関する環境について考える	A・B・C
			6	1消費行動と意思決定 2社会の変化と消費生活 3消費者の権利と責任 4持続可能な社会環境	・消費行動において意思決定のﾌﾟﾛｾｽを理解する ・契約社会における消費者としての自覚と責任を理解する ・消費者の権利と責任について理解し，自主的に消費行動することの必要性を理解する	A・B・C
11		2章　経済的に自立する	5	1経済のしくみを知る 2ライフステージと経済計画	・家庭の収入や支出，予算生活の必要性について理解する	A・B・C
	考査		1			
12	第四回考査範囲	第2編　生活をつくる 2章　衣生活をつくる	10	1人と衣服のかかわり 2衣服の素材を見てみよう 3衣生活の管理 4衣生活と資源・環境 5すべての人が快適な衣生活を 6衣服の形・デザイン	・なぜ服を着るのか，着ることの意味を考える ・衣服素材の種類，繊維の種類と特徴，衣服素材の性能について理解する ・計画的な衣生活を送るために，衣服の購入・選択，洗濯・保管，廃棄までの流れを理解する ・環境に配慮した衣生活を考える	A・B・C
1		冬休みの課題		（ホームプロジェクト）	（家庭生活の中の課題をみつけ，課題解決に取り組む）	A・B・C
2		3章　住生活をつくる	6	1人と住まいのかかわり 2住まいを計画する 3健康的なすまい環境 4安全な住まい環境 5これからの住まいを考える	・住まいの機能について理解する ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができるようにする ・快適な室内環境を整えるための条件を知る	A・B・C
3	考査		1			
		新年度の準備	1			

第　1　回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月　日　曜日			
月　日　曜日			
月　日　曜日			
月　日　曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策（主にやること）	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代文B			
古典B			
選択 地歴			
数学Ⅱ			
化学基礎			
選択 理科			
保健			
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ			
英語表現Ⅱ			
家庭基礎			
数学B （選択者のみ）			

【3】 学習計画と記録

日時		学習事項	時間（分）	コメント
記入例 月　日 曜日	PLAN	国語ワークp12～14　数学問題集p20～21 （総合やLHRなどで事前にしっかりと記入しておきます。）	120	数学に時間がかかった。明日は取り戻す（簡単で良いので感想を書きます）
	DO	国語ワークp12～p14　数学問題集p20 （勉強した内容を、その日のうちに記入します。）	120	
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			

【4】今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。（複数の理由もOK）

教科・科目名			
理由			

＜理由の選択肢＞ 1. 勉強時間が短かったから
2. 勉強の仕方が悪かったから
3. 他の科目に力を入れたから （力を入れた科目：　　）
4. 以前から苦手だったから
5. その他（具体的に、上記の欄に書き込む）

【5】自分の勉強の仕方で、学習内容がしっかりと身についていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【6】自分の勉強の仕方で、学習内容があまり身についていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【7】次回の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

第　　2　回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策（主にやること）	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代文B			
古典B			
選択 地歴			
数学Ⅱ			
化学基礎			
選択 理科			
保健			
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ			
英語表現Ⅱ			
家庭基礎			
数学B （選択者のみ）			

【3】 学習計画と記録

日時		学習事項	時間（分）	コメント
記入例 月　日 曜日	PLAN	国語ワークp12～14　数学問題集p20～21 （総合やLHRなどで事前にしっかりと記入しておきます。）	120	数学に時間がかかった。明日は取り戻す（簡単で良いので感想を書きます）
	DO	国語ワークp12～p14　数学問題集p20 （勉強した内容を、その日のうちに記入します。）	120	
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			

【4】今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。（複数の理由もOK）

教科・科目名			
理由			

＜理由の選択肢＞ 1. 勉強時間が短かったから
2. 勉強の仕方が悪かったから
3. 他の科目に力を入れたから （力を入れた科目：　　）
4. 以前から苦手だったから
5. その他（具体的に、上記の欄に書き込む）

【5】自分の勉強の仕方で、学習内容がしっかりと身についていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【6】自分の勉強の仕方で、学習内容があまり身についていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【7】次回の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

第　　3　回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策（主にやること）	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代文B			
古典B			
選択 地歴			
数学Ⅱ			
化学基礎			
選択 理科			
保健			
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ			
英語表現Ⅱ			
家庭基礎			
数学B （選択者のみ）			

【3】 学習計画と記録

日時		学習事項	時間（分）	コメント
記入例 月　日 曜日	PLAN	国語ワークp12～14　数学問題集p20～21 （総合やLHRなどで事前にしっかりと記入しておきます。）	120	数学に時間がかかった。明日は取り戻す（簡単で良いので感想を書きます）
	DO	国語ワークp12～p14　数学問題集p20 （勉強した内容を、その日のうちに記入します。）	120	
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			

【4】今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。（複数の理由もOK）

教科・科目名			
理由			

＜理由の選択肢＞ 1. 勉強時間が短かったから
2. 勉強の仕方が悪かったから
3. 他の科目に力を入れたから （力を入れた科目：　　）
4. 以前から苦手だったから
5. その他（具体的に、上記の欄に書き込む）

【5】自分の勉強の仕方で、学習内容がしっかりと身についていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【6】自分の勉強の仕方で、学習内容があまり身についていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【7】次回の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

第　　4　回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			
月　　日　曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策（主にやること）	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代文B			
古典B			
選択 地歴			
数学Ⅱ			
化学基礎			
選択 理科			
保健			
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ			
英語表現Ⅱ			
家庭基礎			
数学B （選択者のみ）			

【3】 学習計画と記録

日時		学習事項	時間（分）	コメント
記入例 月　日 曜日	PLAN	国語ワークp12～14　数学問題集p20～21 （総合やLHRなどで事前にしっかりと記入しておきます。）	120	数学に時間がかかった。明日は取り戻す（簡単で良いので感想を書きます）
	DO	国語ワークp12～p14　数学問題集p20 （勉強した内容を、その日のうちに記入します。）	120	
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			
月　日 曜日	PLAN			
	DO			

【4】今回の考査において、自分の目標・予想よりも出来が良くなかった科目を1～3科目あげてみよう。
その出来が良くなかった理由を、各科目ごと下記の「1～5」中から選んで記入しよう。（複数の理由もOK）

教科・科目名			
理由			

＜理由の選択肢＞ 1. 勉強時間が短かったから
2. 勉強の仕方が悪かったから
3. 他の科目に力を入れたから （力を入れた科目：　　）
4. 以前から苦手だったから
5. その他（具体的に、上記の欄に書き込む）

【5】自分の勉強の仕方で、学習内容がしっかりと身についていると思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【6】自分の勉強の仕方で、学習内容があまり身についていないと思う学習方法はどのようなやり方ですか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【7】次回の考査に向けて、点数が良くなかった科目の学習方法を、今後どのように改善しますか。

科目		学習方法	
科目		学習方法	

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

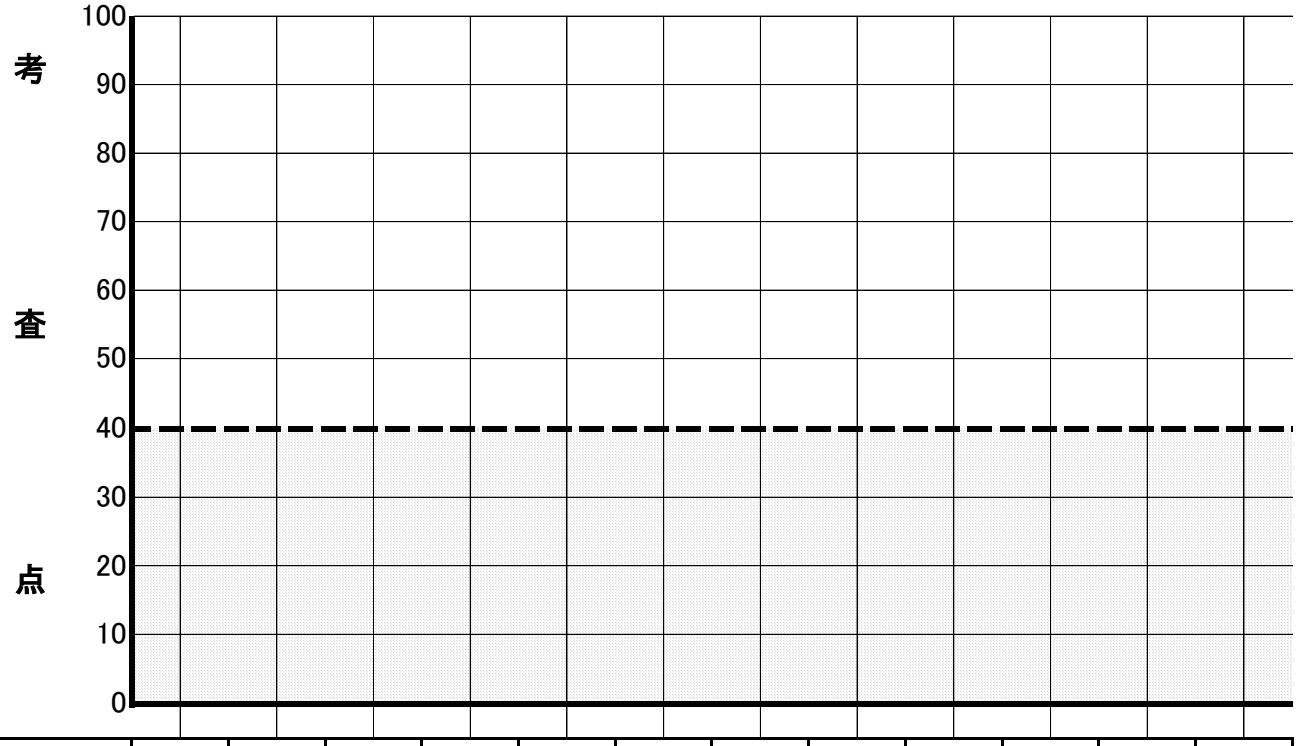
【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

〇考査点をグラフで書きましょう　　1期：黒　　2期：赤　　3期：青　　4期：緑



科目名												
1期考査点												
2期考査点												
3期考査点												
4期考査点												

〇評価点のまとめ

1期評価点												
2期評価点												
3期評価点												
3期までの合計点												
目標評定												
4期目標点												
4期評価点												

評定「5」：評価点80～100点
評定「4」：評価点70～79点
評定「3」：評価点50～69点
評定「2」：評価点40～49点
評定「1」：評価点39点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

印刷業者
株式会社　鈴木印刷所
　住所　983-0852
　　仙台市宮城野区榴岡 3-8-1
　TEL　022-295-5905
　FAX　022-295-1985

2年	組	番	氏名